大正元年十月一日第三種郵便物認可　大正元年十一月一日發行（毎月一回一日發行）

近代思想

十一月號

■ナイヒリストの死（小話）……榮（一）
■近代科學の傾向（評論）……大杉榮（二）
■オーソリテの話（寓話）……ムルタトウリ（七）
■日記から（隨筆）……上司小劍（八）
■懷の路（詩）……瓢風（一〇）
■小妹（短歌）……安成二郎（一一）
■ショウな劇「武裝と人」（梗概）……堺利彥（一三）
■オスカー・ワイルド二篇（寓話）……和氣律二郎（二一）
■無知（寓話）……ムルタトウリ（二二）
■近代劇論（評論）……荒畑寒村（二三）
■讀んだだけ（批評）……安成貞雄（二八）
■大久保より（雜錄）……榮（三〇）
■新刊紹介……記者（三二）
■六合雜誌から……榮（三三）

近代思想社

東京府下大久保百人町三五二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

213-442254
Asia Library AP 95 .J2 K47 no.2

▲三浦將軍題字
▲澁澤男爵題字
▲頭山滿翁題字

▲三宅博士序文
▲幸田博士序文
▲黑岩先生序文
▲大木伯爵序文

▲尾崎先生序文
▲山路先生序文
▲犬養先生序文
▲浮田博士序文

（新刊）……天下の青年！野依秀一著……

青年の敵

堺枯川氏の長文の跋を掲ぐ

◉定價金一圓◉郵税八錢◉四六版上製五百頁

『青年の敵』とは白晝の强盜野依秀一が、天下の模範紳士新渡戸稻造に食つて掛かれる罵倒錄也。僕は敢て野依を白晝の强盜と呼び、而して新渡戸を天下の模範紳士と稱す。世を擧げて然か言へば也。雖然何れも是れ他人樣の勝手につけた名に過ぎず。ふたりの性行のホンの上ッ面を聞き嚙つて、無邪氣なる群集が虚に吠えた言葉に外ならず。其の上ッ面の五六枚も剝げば、其下には怖る可き强盜却つて滅法熱烈の正直者として現はれ、而して所謂模範紳士なるもの却つて暗夜のコソ〳〵盜棒として現はれざるにも非ず。此間の消息を解せんと欲する人々の爲に、僕は敢て此快著を玆に推奬する（大杉榮）

發行所　東京芝露月町　實業之世界社　振替貯金三四三三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

痔疾其他肛門病
專門治療

東京肛門病院

院長 谷泉

東京市芝區西久保櫻川町三

電話芝 特長二七六八番
三六七一番

今

や頑冥不靈なる俗論跋扈し將に一代の風潮を誤らんとす此時に當りて冷靜透明なる乃木大將論出づ之れ熱狂せる國民に對する一服の清涼劑ならずとせんや

乃木大將論

▲肖像入▼ 金廿五錢 ▲郵稅四錢▼

人物社同人著

▲血に始まり血に終はれる乃木大將の一生▲乃木太將の自殺と世論▲乃木大將性格論▲乃木大將の教訓▲史上の人物と乃木大將との比較▲乃木大將の自殺が外人の日本人觀の上に及ぼす影響……之れ其目次の大要なり、敢て諸君の一讀を希望す

發行所 東京市本郷湯島三組町 電話下谷四七二四番 振替東京二三二九〇 人物社

第三回
新學期開講

切實なる時代の要求に依りて生れたる最も實際的なる漢學講義錄！！（此際入會者には特典あり）

普通漢學講義

講義　每月二回發行　講師　博士、學士、其他數名

會費　一ヶ月四十錢　一ヶ年（全部四圓四十錢）　會期　一ヶ年

漢學は東洋思想の源泉にして東亞文明の根本たり其教訓の深遠なる其興味の無限なる一朝にして之を悟るべからず然るのみならず漢文學は日本文學の一支源にして其感化の及ぶ所至大至深なり苟くも漢學の智識を缺きては遂に文を囑する能はず。思想に志あるものと文章に志あるものと凡て必ず之を學ばざるべからず（而かも世に漢文學を平易に講述せるもの甚少し、本會夙に『漢學講義』を發刊して其平易なる講義と懇切なる指導により、大に斯界の歡迎を博し既に學期を重ねて基礎益々固く信用益々深きを加ふるに至れり、今や第三新學期を開講し大に特典を設けて會員を募集す。江湖斯學に志あるの士、速に來て入會せられよ。講義錄「見本付會則」申込次第無代進呈す

●漢學獨習に缺く可らざる講義錄として好評嘖々たり

東京小石川大塚上町十三
振替（東）一二九四番
漢學普及會

高島平三郎先生著（三版出來）

現代の傾向と心的革命

△定價八拾錢　△四六判脊クロース天金　△装釘佛蘭西式
△送料八錢　△表紙ワットマン　△優美高尚

世は老いて新しき刺戟に堪へずなりゆけり。青年は新しき刺戟を受入れて、新しく生きんと企てたり。そこに老人と青年と政治と藝術と、宗教と科學との戰は開かれたり。かくてこの戰は多くの不良少年と、頑固なる老人と、傷きたる若人と、悲憤せる教育家と、失望せる青年と、彷徨せる思想家とを生み、世は混沌として光を失ひぬ。この秋にあたり心理學の泰家高島平三郎先生陣頭に利刀の筆を提げてその戰況を語り、痛快にしてしかも同情ある解決を與へらる。心的革命の時は來りぬ。誰れかその快報を聞かむことを欲せざる!!!!

發行所　東京麹町區麹町三丁目三番地〔振替東京二〇九一四番〕　洛陽堂

第一巻 第二號

ナイヒリストの死

もう餘程舊い話だが、或日イルクトスクの町で、波蘭の或る醫者と寫眞師とが狂犬に手を嚙まれた。寫眞師は早速其の創を熱鐵で燒いたが、醫者の方は只燒藥をつけて置いた。

二人とも今牢から出たばかりの道で此の災難に遭つたのだ。そして此の醫者はまだ若い、美しい、そしていつも患者達から慕はれてゐる聰明な青年であつた。

それから六週間ばかり過ぎると、其の嚙まれた腕が急に脹れ出して來た。素より醫者は直ぐに自分が狂人になるんだと知つた。そして同じ流人仲間の或る醫者の處へ駈けつけた。

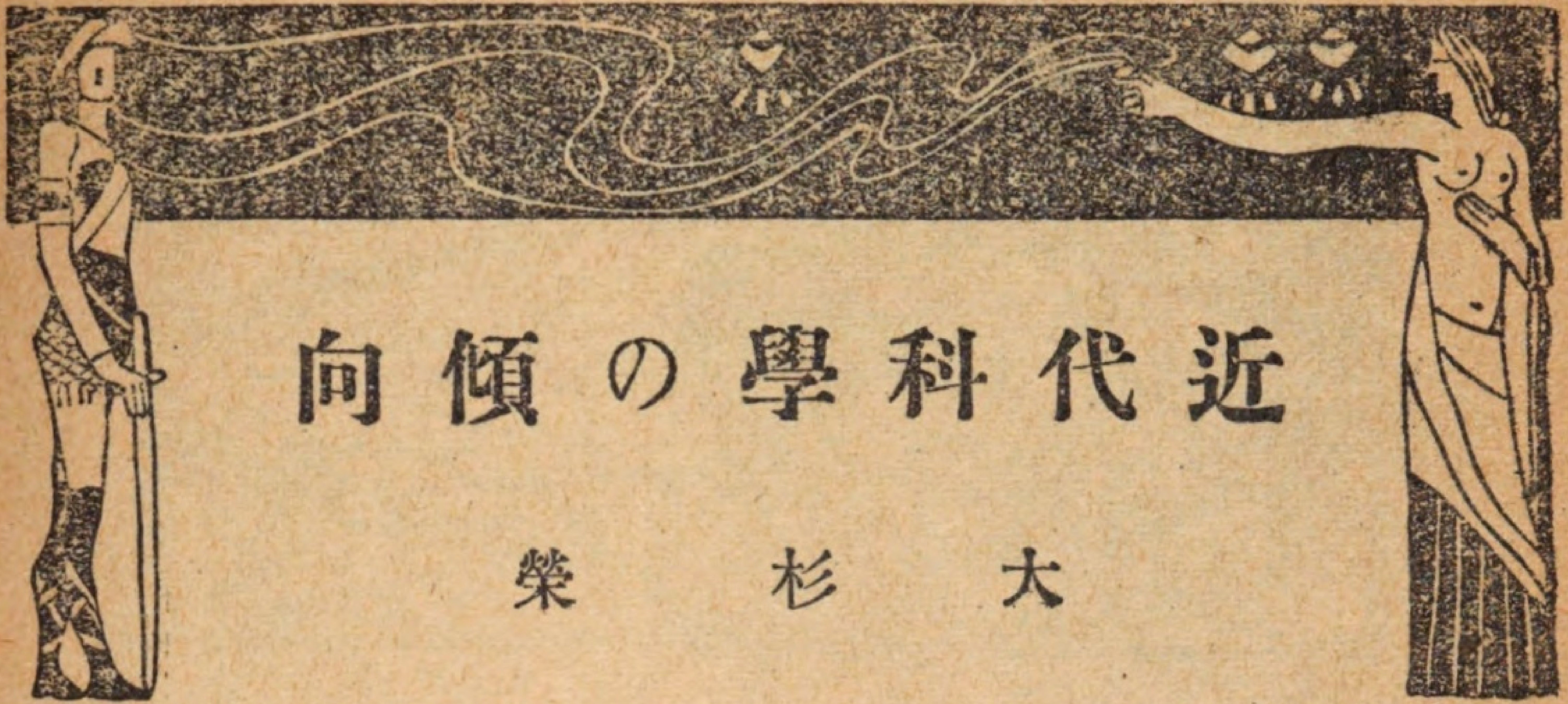
「君、御願ひだ。ストリキニーネをくれ。此の腕を見たまへ。僕は一時間もたつかたゝん中に狂人になるんだ。友人にも君にも誰れにだつて嚙み付くんだ。もう一刻も猶豫は出來ん。さあストリキニーネをくれ。僕は死なゝけやならぬ。」

流石の友人も躊躇した。そして先づ解毒療法を試みやうと思つて、同志の或る女と一緒に治療をした。

やがて二時間ばかりして、醫者は口から泡を吹いて、二人に嚙み付かうとして飛びかゝつて來る。それでも時々自分に歸つてはストリキニーネ！ストリキニーネ！と呼はつて、そして又狂ひ出す。そして遂に狂死に死んで了つた。

—榮—

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



近代科學の傾向

大杉榮

一

自然の事實に關する智識と、社會現象に對する概念とは、少なからず相交渉する處あるものである。換言すれば宇宙の總体に關する思想の變化と、社會現象に對する思想の變化とは、常に著く相反映する。

曾つて吾々の先祖は信じてゐた。地球は宇宙の中心である。太陽も月も星も、總て此の地球を中軸として、其の周圍を廻轉する。そして日月星辰を始め萬有盡く、此の地球の上の萬物の靈長たる人間の爲に、神の御手によつて創られた。されば神は常に人間の上を見守つて、或は其の德行を賞せんが爲に、或は其の罪惡を懲さんが爲に、時に野に雨を降らし、時に町に雷を鳴らすと。そして此の科學と此の哲學との支配してゐた史上の最も暗黑な時代を、最も雄辯に物語るものは、即ち彼の東方諸國の神權政治であつた。

けれどもやがて十六世紀の頃となつて、人と及び其の思想とが漸く宗教の桎梏を脫しかけやうとした時、既に人は、從來地球と人間とに餘りに過大な役目を帶ばしめてゐた事に氣がついた。地球はもはや宇宙の中心どころでなく、他の諸遊星よりも更に更に小さな一小塊、太陽系中の一粒の砂に過ぎないと知つた。そして地球に代つて宇宙の中心となつた、しかも地球に比すれば廣大無邊な程の彼の太陽も、それと同じ大きさ或は更に大なる、天の河の中に閃いて見える無數の他の太陽の一つに過ぎないとなつた。斯くして今迄は神のいとし兒と誇つてゐた人間も、此の窮りなき宇宙の事實に對面すれば、突如として九天の上から九地の下に蹴落さるゝの觀を呈した。

哲學史を繙いて見れば、此の天文學上の智識の變化が、何れ程社會事實の上に影響を與へたかに就いて、必ず幾頁かの絢爛たる文字を見出さゞるはない。實に此の時代のあらゆる思想は、其の純理的なると又應用的なるとを問はず、一として其の反動を蒙らざるはない。そして此の時代から始めて、今日の所謂自然科學の芽が吹き出して來たのであつた。

二

然るに今日又、これと同樣の出來事が起つて來てゐる。即ち吾々は科學的概念の總体と哲學的概念の總体との上に、既に前にもまして、更に深い更に大きな變化の起りつゝあるのを見る。先きの例を追ふて此處

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にも僕は天文學の例をとる。

　十八世紀の終りから十九世紀の始めにかけた天文學は、正にニユートン說の全盛時代であつた。其の哲學は云ふ。太陽は吾々の太陽系の主人である、王である、支配者である、又心である、魂である。此の太陽から、其の諸衛星の運動を指揮し其の間の調和を依持する力が出て來る。即ち太陽の強大なる引力は、善く地球や遊星や又は彗星をすらも、各々其の軌道に安んぜしめる。且つ其等の總てのものは、此の太陽から分れ出た枝葉のやうなものである。皆んな之れから生れて來たんだ。そして又、其等のものに生氣を與へ且つ其の表面の飾りとなつてゐる諸生物も亦、皆んな此の太陽のお蔭で育つてゐるんだ。此の支配者の權威によつて、始めて宇宙の間に完全な秩序と調和とが生ずる。若し多少の不秩序の起る事があつても、それはホンの一時の變動で、やがて太陽の引力が總てをもとの秩序に歸らしめる。しかも此の秩序たる實に萬世不易のものである。何んとなれば一切の變動は、其の命ぜられた秩序に復歸せんが爲に互に相補整し相壞滅するが故であると。斯くの如くして此處に新しい太陽崇拜敎が起つた。

　しかし此の概念も亦、前のと同じやうに直ちにぶち毀されて了つた。諸遊星と諸太陽との間の無際の空間には、限りない數の極微物質の群が飛び廻つてゐる。其の群には時々地上に落下して人心を戰慄せしめる大きなのもあれば、又漸く數グラムが或は數サンチグラムにも過ぎない小さなのもある。尤もこんな小さな群にも、猶其の周圍には、顯微鏡でゝもなければ見えないやうな無數の塵埃で空間をとりかこんでゐる。此等の極微物質は各々其れ自身の生を有しすばらしい速度を以て四方八方に突進して到る處にそして常に、打つかり合ひ合し合ひ離れ合ひして、其處に或る偉大なる力を生ぜしめる。其の力は之れを一つ々々に離せば素より云ふにも足らぬ極微のものではあるが、それが相重なり相積んで、遂に恐ろしい廣大なものとなる。そして太陽系其者も、其の中の日月星辰も、又其等のものを動かす運動も其の調和も、實に總て此の極微物質の作用に過ぎないと分つた。更に一歩を進めて云へば、ニユートンが太陽の力であると云つた引力其者も、實は此の空間に滿ち々々てゐる極微物質の運動の結果に外ならぬのかも知れぬ。

　一言に云へば、從來は常に總計と結果とのみを見て、其の總計を成す各單位や、又は其の結果の起源と云ふ事に就いては、殆んど顧みもしなかつた。けれども今日では丁度それと反對に、單位であり又起源である極微物質の方に寧ろ注意を傾倒するやうになつた。そして總計の中に積り重なつて見えなくなつてゐる各個体の微かなる作用を知らなければ、其の結果をも亦知る事が出來ないと觀念するやうになつた。

　更に語を換へて云へば、宇宙にはもはや只一個の支配力と云ふやうなものはない。プレエスタブリシドの法則はない。プレコンシーヴドの調和はない。只無數の極微物質が各々自由に其の向ふ處に突進して、そして其の間に均勢が出來る。それが宇宙の力である、法則である、調和である。此の事は又後に說く。

　以上は最近天文學の結論である。宇宙の總概念、即ちコスモロジーの結論である。

三

　そして天文學上の此の結論は、更にあらゆる自然と人類社會との科學の上にも、之れと同じ變化を及ぼして來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

先づ物理學上では、嘗つて實体として取扱はれてゐた光とか熱とか又は電氣とか磁氣とかいふものが、餘程其の性質の解釋を變へられて來た。即ち熱せられた又は電氣を通ぜられた或る物体に對して、或る未知の力が加はつた死んだ物体として見るやうな事はもはやしない。必ずや物理學者は先づ、其の物体及び其の周圍の空間の中に、無數の極微物質の運動に注意して、そして其等のもの丶振動と衝突と生氣とによつてあらゆる方向に突進し活躍し轉環してゐる光や熱や又は電氣や磁氣やが生じて來るのだと說明する。

生物學に於ても亦、種屬の創造とか現出とか云ふ事はもはや昔の物語となつて、今日では各個体其者の生と及び其の周圍と云ふ事が、動植物學者の研究の主題となつた。そして此の周圍の影響とか、又は每日のやうに變つて行く其の諸種の條件に各器官が適應して行く有樣の下に、個体の上に起る變異を研究するやうになつた。氣候の寒暖乾濕や、食物の多少や、又は其の外界の力に對する感じの厚薄等によつて、各個体の上に起る變化が、新種屬の起源となるのである。即ち種屬の變異は、各個体の上に別別に起る變異の總体或は結果である。各個体が其の生存する周圍の無數の影響の各々を受けて、そして各個体が自ら其の個性に從つて其等の影響に應じた、其の總計が相集まつて種屬を作り上げるのである。

しかし此の個体其者も亦、無數のそして其れ自身の生を有する極微物質の集合体である。動植物の各種の器官は、有機体たる無數の細胞より成り、其の各細胞は自らの個性を呆守しつ丶互に相集合して、其處に或る一個体を組織するのである。人はもはや唯一者ぢやない。分離する事の出來ない完体ぢやない。微生物の集合闘である。細胞の群体である。器官の部落である。斯くして生理學者は、人を知らうと思ふなら、先づ其の各單位を究めればならぬと云ふやうになつた。

そして十八世紀頃の唯物論者すらも猶其の概念に囚はれてゐた、所謂人の靈魂なるものも、何にも孤立した別な存在物ぢやなくて、要するに甚だ復雜した、即ち各〻自治しつ丶別々に獨立した自由の行動をとつてゐる、諸種の官能の群体である、總計である。此等の官能の各々には、夫れ々々の神經中樞がある。又夫れ々々の種々なる器官がある。斯くして遂に心理學は、一個人の心理的官能の科學たらずして、其の個人の生を組成する諸種の官能の離れ々々の研究となつた。

四

社會科學とても亦同じ事である。寧ろ更に明瞭に此の變化が現はれてゐる。

歷史はもはや王侯の歷史ぢやない。民衆の歷史である。更に適切に云へば各個人の歷史である。歷史の見解はもはや所謂英雄崇拜を許さない。そして群集の史上に於ける大なる役目が、研究を重ねらるればらるる程、益〻重大な意味を持つて來た。過去の大事件は總て幾千幾万の個人の意志の積み重なつた結果として見られるやうになつて來た。即ち歷史家は先づ、或る時代に生存した一國民を組成する各個人が、何んな信仰を有し、何んな生活をなし、何んな社會的理想を有し、そして何んな方法を以て其理想に進んで行つたかと云ふ事を調べて見る。そして此等の總ての力の作用によつて、史上の一切の大現象を解釋しやうとする。トルストイの描いた一八一二年の戰爭の如きは、實に其の好適例である。

法律學者も亦、もはや單に或る法典を研

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

究するだけでは滿足が出來なくなつた。そして丁度人種學者と同じやうに、いろ/\な制度の起源を尋ねて、時代を追ふて其の進化の跡を究めて行く。しかも此の研究を進めるにも、成文法などよりも寧ろ各地方の習慣、又は所謂習慣法にたよつて行く。そして其處に無名の群集の建設的天才を發見する。

　又經濟學は嘗つて國家の富の學問であつた。此の科學の始祖たるアダム・スミス自らも、其の名著に題して「富國論」と云つた。即ち彼れが取扱つた主題は、國家の生産であつた、輸出入であつた、交換であつた。けれども今日の經濟學者はもはや、國家の富を研究するだけで滿足が出來なくなつた。そして各個人が其の欲望を果してゐるか否やを知ることが、其の最も必要なる研究の主題となつた。

　今日の經濟學はもはや一國家の富を其交換の總額によつて測るやうな事をしない。そして先づ窮乏の中に盡いてゐる個人の數に比較して、幸福を享けてゐる個人の數が何れ程あるかと見る。即ち一軒々々と廻つて歩いて、食物に事を缺いてゐやしないか小供にサッパリとした衣具を著せているか明日のパンに困つてゐるやうな家はないかと探して見る。之れを要するに個人の欲望と其の滿足と云ふ事が、最近經濟學の先づ第一に知らんと欲する處のものである。

　政治學に於ても亦、各國の法典に記されたいろいろな形式、即ち國家の看板などはもう左程に大した問題のものではない。只政治學者の知りたいのは、各個人が何れ程までに自由を享けてゐるか、地方自治の欲望が何れ程までに滿足せられてゐるか、各個人の智識的平均が何處まで進んでゐるか何處まで其の思想を表示する自由があるかそして又其の情意の衝動によつて行動するの自由が何處まで行つてゐるかと云ふ事である。即ち政治學の研究の主題とする處は矢張り國民を組成する單位の個人であつて國家の政治的狀態などゝ云ふ其の結果は、其の起源たる個人の狀態さへ分れば自然に分つて來るものとしてゐる。

　斯く物理界にも生物界にも又人類界にも總ての科學に吾々は時代の一大特徴たる此の傾向を容易に見る事が出來る。嘗つては總計と結果とをのみ研究してそれに滿足してゐたのが、今日では倒に其の總計なり結果なりを組成する各個体の上に注意を向けるやうになつた。

五

　先きに一寸一言して置いたやうに、近代科學の此の傾向は或る偉大なる一概念を近代思想の上に齎して來た。それは調和とか又は秩序とか云ふ思想に就いての、最近科學の概念である。

　自然は實によく秩序が行屆いてゐる。激變などゝ云ふ事は滅多にない。何うして日月星辰はいつも其の空間の道を往來して、互に衝突したり打壞し合つたりする事がないのだらうか。何うして火山の爆發や又は不意の地くづれなどが起つて、時に大陸を打ちくづして、地の底の洞の中や又は波の底の凹地などに沈めて了ふ事がないのだらうか。何うして動植物などの種屬が、他の種屬の爲めに忽ちに退治し盡されて了ふ事がないのだらうか。何故又、人類の社會はこんなに固定してゐるのだらうか。何うして時々其の内部の顚覆と云ふやうな事が起らずに、長い間かうして續いて行くのだらうか。

　此等の疑問に對しては、いつの時代にも必ず何等かの解答が出てゐる。そして其の解答は常に其の時代によつて、いろ/\と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

違つてゐる。

昔の解答は極めて單純なものであつた。即ち創造主が其の創造物の保存に勉めてゐるのだと。

けれどもやがて此の思想が法則と云ふ概念に變つて來た。尤も法則と云つても、最近科學の云ふ法則とは大ぶ其の意味が違う即ち所謂自然法を解するに、かく/\の事が生ずれば必然に又これ/\の事が生ずると云ふやうな、物と物とのたゞの關係、云ひ換へれば、因果の條件的法則と云ふ風に見ないで、其れらの物や現象の上に幾段と優れた、そして其等のものを指揮し命令して行く、何にか別なものゝやうに思つてゐたのであつた。

十九世紀の科學は多く此の思想の下に支配せられてゐた。自然科學もさうであつたし、又社會科學もさうであつた。そしてかうした法則とか規律とか又は秩序とか云ふ思想が、大學にも議會にも官衙にも商會にも、到る處に、そして又日常生活の間にすらも浸み込んで了つた。佛蘭西でよく云ふジャコビニスム即ちこれである。

六

けれども最近科學の潮流は更に其の道を轉じかけて來た。自然界に多少の調和のあるのは、大きな激變の滅多に起らないのは、そして生物や無生物が其の周圍の狀件によく適應してゐるのは、其等のものが此の周圍の條件其者の産物であるからである。其等のものの現在あるやうに其等のものを造つたのは、此の周圍の條件其者である。從つて此の周圍は其等のものを滅多矢鱈に打こわすやうな事をしない。建設力と破壞力との自由なる働き其者が、其等のものを創造して、そして其等のものの間に調和を維持してゐるのである。されば若し調和がありとすれば、それは此等の力の結果に外ならない。そして此の結果は又、其の時の必要に應じて、此等の力によつて常に變化せられ得るものである。

調和や秩序は神の御心によるものでもない。又或る一個の力によつて課せられた法則によるものでもない。調和や秩序は只次ぎの一條件によつて維持せられて行く。即ち或る同一の點に働くあらゆる力の間に自由に生じた均勢と云ふ事である。そして此等の力の中の或る者が、何者かによつて障碍せられる時、其の力はしばらく表面には現れないがしかし其の間に蓄積せられて、やがては其の障碍物を打破つて爆發する。斯くして所謂カタクリスムが起る。顚覆が生ずる。

又調和は決して永遠に續いて行くものではない。必ず斷えず改修せられ變化せられて行くと云ふ條件の下でなければ存在するものでない。自然界にしろ又人類界にしろ一物たりとも一瞬時も變化しないで濟ませるものはない。不斷の變化、これが自然の生である。そして自然界に多少の調和があり、そしてよし變動があつてもそれが極く稀れでしかも常に地方的であるのは、自然界の現象には其等の力が障碍する或る意志が滅多に交渉しないからである。そして其の盲目的の衝動と軋轢との結果、互に相均勢して、遂に其の間に密接なソリダリテーを結ぶ。

尤も此の自然の調和と云つても、それは勿論或る範圍内に云ふ事で從來の生物學者や哲學者のやうに誇張する事は出來ない。星とか大陸とか云ふやうなものは、幾百千万年かゝつて生長して來たもので、其の間に殆んど信ずべからざる程緩慢な變化を續けてゐる。こんな風に幾十百世紀かを其のリズムとする天体の調和と、それに比すれ

ば無限の加速度を以て進行するものと、調和との間には、當然に或る區別を設ければならぬ。

動植物の種屬は、從來假定せられてゐたよりも、餘程の急速度を以て變化し、又新種屬を生ぜしめる。地質の變化も亦そうである。そして此等の變化に對しては、從來の自然學者が使つたやうな、一様なそして緩慢な進化など〻云ふ言葉は、もう之れを許されない。進化と變化とが常に入りまじつて、そして此の二つとも等しく自然の大調和の爲に其の力を寄與してゐる。此の事は何れ「進化の二相」と題して、自然學的に及び社會學的に、更に詳論するの機會があらうと思ふ。

以上僕は最近科學の一大傾向に就いて、ホンの瞥見的觀察を下した。そして此の觀察を更に詳細に自然界や人類社會の諸現象に及ぼす時、僕等には或る一種の哲學が出來て來る。即ち自然と人類社會とのあらゆる現象に對する概觀、及び微細なる日々の生の闘爭に對する此の概觀の應用が出來て來る。

オーソリテの話

—兄貴、お前は已れよりも大きいんだから、ホラあすこのニレの木の間に、丁度可愛い〻乙女が口をあいて、已れを見て笑つてるやうな、あの柘榴の實に手が届くだらう。もう熟しきつて裂けてる。あの創口が燃えるやうに眞赤になつてる。あれや已れにオベッカして、自分で切り開いた創なんだよ。已れや柘榴が大好だ。兄貴、お前は已れよりも大きいんだから手を延してあれを取つてくれないか。

兄は弟の云ふなりに、それを取つて食はしてやつた。それから兄は野原へ行つた。そして牝山羊が其の子供を探しに山から降りて來るのを見た。

—うちの子をお見かけになりませんでしたか。牝山羊が通りか〻つた獅子に尋ねてゐる。あなたは平地に住んでゐらつしやるんだし、野原の道もようくご存じでございませうが、私なぞにはもう辛い道で、蹄も何も皆んな裂けて了いました。

—子供なぞ何うでもい〻や。お前の子はなあ……獅子が云つてゐる。それよりかまあ此處へ來い。手前を食つてやるから。

獅子は牝山羊を食つて了つた。兄はびつくりして獅子に尋れた。

—何うしたんだ。貴様は子供を捜してる牝山羊を食つちやたれ。

—だつて、奴が蹄の力をなくしちやつたてのをお聞きなすつたでせう。獅子が答へた。私が奴を食つて惡いんですか。私の此の力ある齒をご覽なさい。私の此の力ある爪をご覽なさい。これだから私は奴を食つちやたんです。

兄は考へた。そして其の長い、太い、丈夫な腕を眺めた。

やがて弟が再びかの果物を取つてくれと賴んだ時、兄は云つた。

—已れの腕を見ろ。お前は柘榴に手が届かんと云つたな。さあお前は已れに食はれて了ふ代りに、これから已れに仕へるんだ。

これ以來弟は兄に仕へた。そして今猶其のま〻で過ぎてゐる。

ムルタトウーリ作
榮　譯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日記から

小　劍

△月△日。晴れ、暑い。

移轉の好きなO氏からまた轉居の通知が來た。其の葉書を私の机の傍に持つて來た女は、『御覽なさい、Oさんなんぞ始終引つ越してるぢやありませんか。氣に入らない家にグツ〲してるなんて大嫌ひだ』と、私が移轉をオックウがつて三年も同じ家に、『厭やだ〲』と云ひながら住んでゐるのをケナシ付けた。

晝飯、ライスカレーに豆腐汁。カレーが辛過ぎたので、疳癪を起してフイと家を出た。電車で目白に下り、砂埃りのヒドい道を眞つ直ぐに、大きな松のある邊りから左へ入ると、新建ちの家に高い話聲が聞える。標札を見るとOの手蹟で、Oの名が書いてある。直ぐ飛び込む。

S氏とT氏とが將棋を差して、O氏が傍から大きな聲で助言してゐた。助言しつゝ、私に向つて忙しさうに近時の藝術を語るO氏の額からは汗がにじみ出してゐた。T氏が負けて、私がS氏と差した。二勝一敗、次にO氏と差して一勝二敗、『僕が一番强いんだ』とO氏が威張る。

T氏は帶の間から金側時計を出して一寸見ると忙しさうにして歸つて行つた。彼れがフランスから戾つたばかりにある家で會つたのと、彼れのアトリエーで半成の肖像畫を見つゝ語つたのと、森の會で多くの藝術家中に彼れの姿を見出したのと接近したのはこんなものであるが、ルウヴル宮やポンペエの廢墟やの繪葉書をヨーロッパから送つて吳れたり、近くは私の小說の新聞に出た時、カットを書いて貰つたりしたので、私には可なりに馴染の深いT氏だ。私は彼れのホッソリとした氣品の高い後姿を懷しい眼で見送つた。

O氏とT氏と私と三人で、外へ出たのは夕方であつた。通りの氷屋へ入つてサイダーを飮むと腐つてゐた。更にミルクホールへ入つたが、『今のサイダーで三人が死んだら何うだらう』と私が言ふと、O氏は『僕は吐き出したから大丈夫だ。死ねば君たち二人だ』といふ。『ナニ僕も吐き出した』とS氏は眼を光らす。

雨が降り出したので、S氏の家で妻君から傘を一本借り、相合傘で、H氏の家へ行く。O氏は『病

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

氣の小供の体温を量つてやる時刻だ』と言つて、雨中を驅け去つた。

H氏は暗いランプの下で何か讀んでゐたが、私たち二人を見ると、本を投げて紙製の將棊盤を持出した。

×月×日。晴れ、風吹く。

O氏と二人で、場末の町を歩いた。『木刀が欲しい』とO氏が言ひ出し、『君のを讓つて呉れ』と迫つたが、床の間の隅に埃り塗れになつてゐる不用の物も、他人から望まれると急に惜しくなつて、私は拒絶した。『それぢや買ひに行かう』と賑やかな町の方へ歩む途中、思ひついてM氏の家に行く。

二三日前、旅行から歸つたM氏は、日に燒けた顏をして、晝寢を妻君に搖り起されたらしく、眼をクシャ〳〵さしてゐた。『盜賊を防ぐには木刀がよい』、『いや仕込杖でなければ盜賊は逃げない』。『僕は護身用にピストルを買ふつもりだ』なぞと武器の話が一時に湧き出す。二三年前、私とM氏とが獵銃を買つて鳥を打ちに行かうといふ約束をしたことを思ひ出し、『今年の冬はやらうぢやないか』なぞといふ。

木刀を賣る家では、赤樫蛤齒の長いのをO氏が買つた。河岸へ出て、其の木刀を振り廻はした身長の高いOの影が汚ない水に映つてゐた。

○月○日。曇、涼しい。

午後Y氏來る。直ぐにコーヒーの豆を碾いて、香の高いのを入れる。Y氏はカフエ、リテレールの首唱者。パンを常食として米は一粒も喰はぬ人。トマトソースの大瓶を二本持つて來て呉れる。

◎月◎日。雨、寒いほどの氣候。

I氏、大阪から蜜蜂を持つて移轉して來る。蜜蜂は四箱、百餘里も輸送されて、着くと直ぐ、雨の中に花を求めて働きに出る小ひさい昆虫の努力…………。

クローバーの葉の形にBの字を入れたのを商標にして、養蜂園を起すなどと、Iは旅裝を解く間もなく語る。マーテルリンクも養蜂をやつた。Iも養蜂をやる。まあ好からう。

M氏がまた旅へ出て鹽原から繪葉書をよこす。夜N氏が來て、急造の紙盤で將棋をさす。I氏も來る。

明日から勉強だ。本郷のA氏から『新富の道成寺がよい』といふ葉書が來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

犢の路

フオス作
飄風譯

太古の森を橫ぎつて、ある日のこと、
一疋の犢が歸る。
けれど犢の常とて、歩いたとこにはくれくれと、
曲り曲つた、足跡の長いつながり。

それからモウ二百年、
犢は死んで了つたけれど、
犢は其の足跡を殘した。
僕はこの足跡の話をする、聽きたまへ。

次の日に通りかかりのひとり身の犬が一疋、
この足跡を歩いてゆくと、やがてまた、
羊の群を引き連れた賢げな鈴付羊、
谷をわたり、嶮岨を越えて、
此の足跡をひろつて行つた。

この日から、森中のあきちの上に、小山の上に、
足跡の路條が出來た。

この路條を出つ入りつ、幾人がしたか知れない。
うねつたり曲つたり、時々向きが急に變る。
無理が無い。こんなうね〱した路に怒り出し、
ブツ〱人が小言を云ふのも。
人間は、けれど――笑つちやいけない――
最初の移住者、犢の後を追うて行つた。
歩く時よろめきながら、
うね〱の森の徑をそろ〱と。

森中の足跡路は、
曲りくねつた細路に、
細路はやがてまた大道と變つた。
そこを通ふ馬共の可哀相な、
燃え付くやうな太陽の下で喘いだ。

かうして二百年、
人は皆犢の足跡を歩いた。

路はやがて村の通から、
市のこみ入つた四辻となり、
たちまち名たたる都の、
中央の街とならうとは

數へきれぬ群集が日毎夜毎、
犢の路のギグ〲に就いて歩み、
犢の旅をした路はうねくれだけど、
大陸の商賣の取引の路。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

たッた犢の一疋は、
五百年も前にゐなくなつたけれど。
かくて千萬人を導いた。

くれ〲の犢の路を、
人は尙ほ歩きつゞけて、瞬く間に、
百年の月日を無にした。
何時までも犢の尻に蹤いてゆき、
曲つて歩く犢の習慣を尊ぶから。

人の心の犢の路。ともすれば、
人はその跡を、心無くも辿る。
そして朝から晩まであくせくと。
他人のした事をする。
どこに自分と云ふもの、
自分の發意と云ふものがある。

踏みならされた路を彼等はゆく、
他人の步いた跡について。

遠い昔の犢の靈と、
犢を見た森の精とが。
きつと嘲笑つてるよ。

小妹

安成二郎

小妹よ君がためには身をすつる此の放縱の兄の心を
同胞の男の中に生ひ立ちてその放縱におびやかさるる
母よ無智の女よ汝が手を解きてわが妹をわれに渡せよ
小妹を生めるが故に呪はれよかく云ひて泣くあはれの母を
小妹よ母と兄との爭ひを離れて早く戀に行かずや
いたましき暗き家庭に生ひ立ちて心ましろきあはれ小妹よ
われを生める女と君を云ふべきかはた亡き父の妻と云はんか
小妹よ同胞のうち君とわれと悲しくよわき心に生れし
さまよへる心の兄とよるべなき身の小妹と悲しきはらから
秋は來ぬ世に薄命のはらからは今年の秋もまた別れ住む

ショウ劇梗概

堺利彦

バアナードショウの「人と超人」の梗概を書く筈に豫告が出て居たけれど、それはショウの最大の作、最重要の作であるので、それより前に幾つか他の作を紹介した方が、讀者の爲にも、筆者の爲にも、大いに便利であらうと考へた。それでこゝには「武裝と人」をやる事にした。

武裝と人

一体ショウ劇は議論である、批評である、教訓である、傳道である。慰みでも無ければ遊びでも無い。作の順序に就いて云へば、初は社會劇で、後には哲學劇となつた。『貧民長屋』や『ワーレン夫人』は、社會改良家の熱心と極めて鋭敏なる觀察力とを示して居る。『武裝と人』や『分るものですか』や『ブラスバウンド大尉』などは、一種峻烈な諷刺喜劇で、因習道徳に對する心的革命家の侮辱を示して居る。更に『人と超人』や『バルバラ少佐』や『ドクトルの板挾み』に於ては、改良家の熱情も、革命家の侮辱も、鋭敏なる觀察力も、皆兼ね備へて居りながら、猶其上に深く入心の奥底に踏み入つた生命哲學を現して居る。

ショウはよく「生命力」若しくは「生の力」(Life force)と云ふ言葉を使つて居る。そして「生の力」の目的は自覺に到達するに在るとして居る。ショウは又多く喜劇を選んで作つて居る。そして喜劇の目的は、世事人事を分析して無自覺、無意識を排除するに在るとして居る。此の無自覺の排除と云ふ事が、ショウの世に與へた最も大なる功業である。凡そ人生の過誤痛苦の大半は、此の無自覺の心狀に基因した者である。世には既に精神の拔け去つた、因習的の道徳や、理想や、形式が蟠屈して、それが爲に人が現在の世相、本來の眞面目を自覺する事が出來ぬ。即ち是等の理想や形式は、既に今日の社會的要求に應ぜぬもので、却つて社會の進歩を阻害して居る者である。そこで此等の舊理想、舊形式に基づく人の無自覺を排除して、人の自覺自意識を促すのが、社會進歩の爲に最も必要な事となる。

そこでショウの劇は大抵『改宗の對話である』即ち舊理想を棄てゝ、新事實の自覺に入るの一歩であ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る。僞善の美名を排除して平淡の實相に入るの道である。更に分り易く云はば、世事人事の箔を落し、後光を剝ぐの教訓である。更に他の言を以て之を云へば、幻影消滅、偶像破壞の劇である。其の意味に於て、此の『武裝と人』は最も善きショウ劇の代表である。『武裝と人』は、燦爛たる武裝を脫して、人の眞相を見るの劇である。『人形の衣裳』を脫いだノラの樣な趣きである。

第一幕

時は一八五年、處はバルガン半島、今ブルガリアとセルビアとの間に戰爭が起つて居る。(此頃では、バルガンの四小國が聯合して土耳古に當つて居るが、其頃では露がブルガリアの尻押、墺がセルビアの尻押で、戰爭して居たのである。)

舞臺はブルガリアの小都會の、ペトコフ少佐の私宅に於ける、娘ライナの寢室。夜ふけてライナが獨り月を眺めて居る處に、母のカザリンが戰捷の吉報を持つて入つて來る。

父の少佐は勿論無事。それに許嫁のセルギアスが騎兵隊突擊の先陣をなして、勇士の譽を一身に負ふた。勇敢なるブルガリア兵は、雪なだれの如くに襲ひかゝつて、セルビア兵を散々にヤッつけた。

『此ブルガリアの御國の血が一滴たりともお前の身內に流れて居るならば、娘、お前はセルギアスを拜まねばなりませぬぞ』と母親は此の名譽の勇士を尊がる。『マア嬉しい。是でこそ兼ての夢が眞となつた。理想の夢が事實となつた。愛國の理想が實現された。ほんに光榮ある世の中だ』と娘は渴仰崇拜を極める。

そこに女中のルカといふ、少し人を馬鹿にした樣な、キリョウのよい女が入つて來る。今セルビア兵がこゝを逃げて行くので、我兵がそれを追擊するから、玉の來ぬ樣に窓を閉めてお休みなさいと、兵隊が云て來たといふ。

母も女中も出て行く。跡にライナは、巫女が神の像を崇める樣にセルギアスの寫眞を手に捧げた、そしてやがて寢床に入る。

暫くすると、銃砲の音が聞える。泥まみれ血まみれのセルビヤの士官が一人、此家の立トヒを攀ぢ登つて窓から寢室に逃げこんで來る。ライナ飛び起きて誰何する。「御覽の通りセルビヤの兵隊だ、死にたくないから逃げて來た」といふ。「死を恐れる兵隊もあるのね」とライナは嘲ける。「兵隊は皆死にともながつて居ますよ」などゝ彼はいふ。

其中、母親が露西亞の士官を案內して搜索に來る。ライナは人情が出て、逃亡士官を窓掛の後に隱して其場を濟ます。跡で其の士官はライナの恩を謝し、『實は私は瑞西人で、ホンの兵隊商賣の雇はれ士官だから、此ピストルにも玉は入つて居らぬ。玉込を仕ようにも彈丸が無い。彈藥筒には有平糖ばかり入れて置いた』などゝ話す。『兵隊

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が戰塲に出て、子供の様に有平など嚙るのですか』とライナは呆れる。『あゝ今も一つ食ひたい』と士官は云ふ。ライナは此の淺ましさを侮みながら、菓子の箱を取つて彼に與へる。『ヤ！カステラだ、有難い』と士官は旨がつて貪り食ふ。

ライナはいよ〳〵呆れて、『ブルガリアにはそんな兵隊はありませんよ』と嘲る。『イヤありますとも。兵隊には只新兵と古兵の別があるばかり。新兵は彈藥を持つてゐる、古兵は菓子を持つてゐる。今度の戰爭に負けたのは、あのブルガリアの騎兵隊が新米だつたからの事です。私はあんな無茶な兵隊を見た事が無い。』

「戰爭に勝つのが新米で無茶ですか」とライナは皮肉にいふ。「無茶ですとも。機關砲の前に野兵が突擊して來るいふ事があるものですか。彈藥さへ善かつたら全滅ですよ」と士官は云ふ。

ライナは騎兵隊突擊の事を聞いて頓に熱心になり、其の様子を話せと云ふ。士官は馬鹿にした様な調子で物語る。「騎兵の突擊はそりや面白いですよ。丸で硝子窓に豆を一つかみ打つける様なものです。まづ一騎やつて來る。續いて二三騎やつて來る。それから跡に全隊一度にドットやつて來る。先に來るのは何時でも新兵で、古兵は皆んな一塊りになつて、前の奴の蔭に隱れて來ますア。騎兵の突擊はホンの眼つぶしを打ッつける様なものだから、戰ふも何もありやしない、だから負傷者は大抵皆、ブッつかり合つた馬から落ちて膝を折つた奴等でさあ。」

「でも其の先陣の一人は本當の勇者ですわねえ」とライナは云ふ。「全く今度の奴はソウでしたよ」と士官は笑ふ。ライナはいよ〳〵熱心に其の勇士の話をせよと云ふ。

『マア其時の様子は丸で芝居でしたね。八字髭の立派な士官が、劍を閃めかして喚き叫んでやつて來る。丸で昔話のドンキホーテが、水車小屋を敵陣と間違へて、打つて掛つた滑稽に善く似て居ましたよ。それで我々はドット笑つて見て居たが、弱つた事には此方の彈藥が皆んな似せ者で發火しなかつた。お蔭で此方は散々の敗北といふ譯です』

ライナはいよ〳〵得意になつて、セルギアスの寫眞を取つて士官に見せ「其の勇士は是でせう。私の許嫁よ。」

士官は大きに恐縮したが、それでも猶彼のドンキホーテの滑稽な様子を思ひ浮べて、覺えず失笑するのであつたが、『然し實はコウかも知れない。イヤ多分ソウですよ。彼等は間諜に依つて、此方の彈藥の發火しない事をチャンと承知して居て、大丈夫安心して突擊して來たに相違ない。』

「ぢやアナタは此の勇士を似せ者だと仰しやるのですね。」「イヤまあ、あなたには戰爭の黑人觀は分りませんよ。」

こんな風な會話が重ねられた後、逃亡士官は止むなく再び立トヒから這いおりて逃げるといふ譯であつたが、ライナは次第に氣

の番に應じて來て、我々はブルガリア第一流のペトコフ家の事であるから、苟くも此家に足を入れた者を保護せねばならぬと云ふので、結局此の敵の士官をかくまふ事になる。

それからライナは其事を母に告げに行つて、母を伴うて返つて來て見ると、士官は無遠慮にもライナの寢床にもぐりこんで、早グッスリと寢こんで居る。母が驚いて呼起さうとすると、『アレお母さん、可愛そうだから寢せて置いておやりなさいよ。疲れ切つてるんですよ』と云ふ。『マア此子は！』と母は呆れる。

第二幕

時は翌年の三月、處はペトコフ家の庭園。左手に家の裏口の梯子段が見えて居る。中央に小さなテーブルがある。

女中のルカがテーブルの上の茶道具を片づけて居ると、ルカの許嫁の下男のニコラが出て來て『ルカ、お前は今少し行儀を愼まなくちやイケナイ』と色々說諭する。ルカは却つて『お前は下男根性になりきつて居るけれど、私はドウしたつて下女根性にはならない』と云ひ返す。

そこに當家の主人ペトコフ少佐が久々で歸つて來る。妻のカザリンが出で迎へて、平和の回復、夫の凱旋を祝し、留守中に電氣呼鈴といふ文明風の設備をした事など話す。續て婿がれのセルギアス、サラノフ少佐もやつて來る。カザリンが之に對しても色色チヤホヤ歡迎すると、セルギアスは頗る不平で、『戰爭なんて實に詰らない。私は勝つて叱られる、露人の士官は負けて譽められる。そして其の露人は少將になつたが、私は少佐だ。馬鹿々々しいから私はモウ辭表を出した。然しそんな話はモウ止しませう』『ライナは何處に居ますか？』『ライナは此處に居ますよ』とライナが左手の梯子段から降りて來る。二人の間に接吻だの何だのある。ライナと父とも接吻する。

それから又戰爭の話が始まる。セルギアスは『戰爭なんて敵の弱味に附けこむのが秘訣で、實に卑劣千万なものです』と云ふ。『それはソウさ。戰爭するのも矢張り一種の職業、一種の商賣だからなア』とペトコフは云ふ。『だから私はモウそんな商賣なんぞ止めて了ふ。あの捕虜交換の時に會つた瑞西の士官が忠告したが、全くです、馬鹿馬鹿しい。』『ウム、あの士官はズルイ奴だつた。』『そりや拔目はありませんや。彼奴の親爺は大きなホテルの主人で、彼奴もスッカリ商人に仕込まれてるのですもの。一体、彼奴等は兵隊商賣なんだから、今度の戰爭も實は彼奴等の爲に起されたんでさア。』

此の序に、セルギアスがこんな話をする。『其の士官奴、丁度私の突擊した砲兵隊に居たんだが、逃道を失つて或家に飛込んだ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

所がそこの娘が其の商人風の口の旨いのにダラされて了つて、大變歡迎してカクまつて呉れた。それに其娘のお袋まで同じ樣にダラされて了つて、翌朝そこの主人の、主人は軍人て出征の留守だつたそうだが、其の不斷着の上衣を貸してやつて、落延びさせてやつたと云ふのです。」

ライナは此話を聞いて、セルギアスが口汚いと云つて大變怒る。カザリンも、そんな汚い話を婦人の前でするると云つて、セルギアスをたしなめる。それからペトコフは、「まだ中々用事がある。あの三個聯隊の兵をフイポポリスに送られればならぬが、糧食が不足だ。少し其事を調べればならぬ」と云つて、近年新に文明風に拵へた大自慢の書齋に行く。カザリンも粋な計ひで、若い二人を跡に殘して行く。

跡にはライナにセルギアス。「我が英雄よ、我が王よ」と一方が云へば、「我が女王よ」と一方が云ふ樣な騷ぎで、「私ほんとに高倘な愛を知つてよ」などゝ云ふ事になる。然しこゝではルカが見て居るので面白くないから散歩に行かうと云ふので、ライナは帽子を取りに行く。

其跡にルカが出て來ると、セルギアスが『ルカや、「高倘な愛」なんてものは實にウンザリするよ』と云つて其手を握る。そして『然し我ながら實に不思議だ。己には自分と云ふ者が半ダスばかりある。あの名譽ある勇士の自分、あの高倘なる愛の使徒たる自分が、今此の自分を見たら何と云ふだらう』と云ふ樣な事を嘆息する。

ルカは「お孃さんに見つかりますよ」と云つて、セルギアスを片隅に連れて行き、そこで色々昧な痴話がある。其中にルカは、ライナが他に男を拵へて居る事を告げる。セルギアスは大いに憤慨する。結局ルカは「どうせ私は下女風情ですから」といふ樣な事で、ツンとして行つて了ふ。

そこにライナが帽を冠つて出て來たが、丁度母親がペトコフの使でセルギアスを呼びに來たので、セルギアスは五分間の暇をライナに乞ふて、書齋に行く。

跡に母親は娘に對し、頻りに彼の瑞西の士官に貸した不斷着の事を心配する。『ほんとに惡い奴ですわねえ、皆んな喋つて了ふなんて。今度若し來たら、私有平糖を彼人の口一パイ押しこんでやるからいゝわ』などゝライナは云ふ。『そんな馬鹿をお云ひで無い。若しか是がセルギアスに知れて御覽』と母親がたしなめると、ライナは『そりやセルギアスはお母さんのお氣に入ですさ。私モウあんな人のことドウでもいゝわ』と、プン〳〵して彼方へ行つて了ふ。

そこにルカが來て、ブルンチユリと云ふ瑞西人らしい大尉が、奥樣にお目に掛りたいと云つて來たとカザリンに告げる。カザリン大いに狼狽したが、兎にかくそこに通して、「善く來て下さつたが、今は夫も婿も歸つて居るから、失敬ですけれど直ぐに此儘お歸り下さいと云ふ。大尉は「勿論すぐ歸ります。私は只チヨツ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

トお庭に、そして上衣を御返却に上つたのですからと云ふ中、「やア、ブルンチユリ大尉。お久ぶり」といふペトコフの聲が聞える。「こんな庭でドウしたんだ。なぜ書齋にお通し申さん」と、少佐は又しても書齋を誇る。セルギアスも續いて出て來る。カザリンはいよ〳〵狼狽したが、ヤットの事で何とかそこをゴマかしつける。ペトコフはそんな事には氣もつかず、只軍隊輸送の事を持て餘して居るので、ブルンチユリに智慧を借らうと云ふので、大いに歡迎して引止める。

忽ちそこに『オヤ！有平糖軍人！』といふライナの聲が聞えた。『コレ、初めてのお客樣があるのに、何を不作法な事を云つて居ます』などゝ母親が娘を叱る。是れについても色々トンチンカンな事があつて、それから結局、ブルンチユリは晝餐の御馳走に預る事となる。

第三幕

前幕の續き、晝餐後、ペトコフ少佐大得意の書齋。ブルンチユリとセルギアスは地圖を擴げて頻りに軍隊輸送の取調をして居る。少佐、カザリン、ライナ、くつろいで居る。

少佐は「アー是でマア萬事一かた付いたが、乃公は此の軍服を脫いであの何時も着なれた不斷着の上衣を着ないと、どうも十分落ちつかれぬ」といふ。「マアおかしい。アノ古上衣がどんなに善いのやら。あれはあなたが脫いでいらつしたまま納戶の壁に掛けてあります。今直ぐ持つて來ますから」と、カザリンは其の得意の電氣呼鈴を押す。」イヤ乃公は先つき納戶に行つたが見えなかつた」と少佐は云ふ。「いゝえチヤンとあります」とカザリンが云ふ。ヨシそれでは賭にしようと云ふ騷ぎになつたが、ニコラが上衣を持つて來たので、「して見るとヤッパリ年のセイかな」と少佐が負ける。

其中、軍隊輸送の調書が出來て、其の發送を下男等に命ずる爲セルギアスも少佐もカザリンも出て行く。跡にブルンチユリとライナが殘る。

二人の間に色々昨年逃込の時の話があつて後、ライナはブルンチユリが其事を人に話したのを責めて、若しかセルギアスが之を聞いたら、吃度決鬪を申込むと云ふ。それでは云はずに置いて吳れとブルンチユリは云ふ。『私は許嫁の夫を欺く事は出來ぬ』と云ふ。『それでは先つき、有平糖軍人と云つたのを胡麻化したのはどうだ』と突込む。『あれはアナタの命を救ふてあげる爲に嘘を云つたのです。私は去年あなたを隱した時と、先つきと、只つた二度しか嘘をついた事は無いのです』とキッパリ云ふ。『一生涯に只つた二度しか嘘を云はぬとはあんまり兊屈な事ですねえ』と冷かす。『失敬な、あなたは私を侮辱なさるか』と詰め寄

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

る。『どうも仕方が無い。あなたが其の眞面目くさつた樣子で、カン聲の切口上をお使ひなさる時には、私は一語たりとも信用する事は出來ません』と急所に切込む。

「此のラナイが嘘を云ふ！ペトロフ家のライナが嘘を云ふ！」とライナは驚き呆れて居たが、急に打解けた態度に變つて、「あなた、どうしてソレ分つて？」

『分りますさ、世故に通じた者の眼には』と云はれて、ライナはいよ〳〵打解ける。『私の云ふ事を嘘だと思つた人はアナタが初めてゞすよ。私變な氣持がするわ。私昔から此の眞面目くさつた切口上を使つたんだけど、乳母もそれを信じたし、兩親も信じたし、皆んな本當にするのですよ。セルギアスだつてソウですよ。』

「あの人自身もヤハリ其質なんでせう。」「そうでせうか、ほんとに？ぢや私……。マアそれや何うでもないけど、あなた私を輕蔑するでせう、モウそんなに見透したら。」「ナニ、それもアナタの可愛らしさの一部ですよ。」「ぢやアナタ、あの私の寫眞何と思つて？」「どの寫眞？」「あのそら、あなたに貸した上衣のポケットに入れて置いた……」「ハア、それはチットも氣が付かなかつた。ぢやまだ其儘はいつてるでせう。」

さあライナは困つて了つた。『誰も見やしなかつたでせうねえ。』『サアどうですか。私は是が一番安全だと思つたから、あのまゝ直ぐに質に入れて置いて、一昨日受出して來たのだから。』ライナは呆れて了つた。『あなたは本當に下劣ですのね。紳士が質を置くなんて！』

こゝにルカがブルンチユリ宛の手紙や電報をドッサリ持つて來て、お使が待つてゐると云ふ。ブルンチユリはそれを開けて「イヤ大變だ　親爺が死んだ。直ぐに歸つてホテルの始末を仕なくちや。オヤ是は辯護士の遺産調書だ。兎にかくチヨット失敬します」と云つて行く。ライナも出で去る。

跡にニコラが來て、色々ルカと話す。「お前の樣な野心家は、私の女房なんどに成つて吳れるより、金持の奥さんに成つて、私が店を開いた時、私のお得意に成つて吳れた方が餘程得だ」と云ふやうな事を云つて出で去る。

引違へにセルギアスが入り來る。ルカは決然として「私が若し露西亞の女皇であつて、そして身分の低いアナタを本當に愛して居たら、私は斷然身を下してアナタの妻になりますが、あなたは眞の勇氣がないから、世間ばかりを氣に兼ねてヤハリ金持の娘を妻にしようとする。だけどモウ駄目ですよ。あの人はアナタを相手にしやしません。あの人はあの瑞西の士官と結婚するのだから。」

是でセルギアスが躍起となり、「世の中は實に滑稽だ滑稽だ」と嘆息する。ルカは冷然として出で行く。

ブルンチユリ引違へに入り來る。セルギアスは直ちに決鬪を申込み、明朝六時クリスラの練兵場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で、馬上に於てお目に掛らうと云ふ。『宜しい、君は騎兵だから馬、私は砲兵だから機關砲で出向はう。今度は彈丸も發火する樣にして置く』とブルンチユリは冷かしたが、結局、馬無しの眞劍勝負と云ふ事になる。

そこにライナが出て來て暫く。『ナニ御心配なさるな。私は劍術の師範までした者。私も切られないし、向ふも切りはしません。そして明朝私は出立する。それで何もかも無事に濟みませう』とブルンチユリは云ふ。

それから色々三人の關係に就いて問答があつて後、ゼルギアスはいよ〳〵嘆息して、『あゝ滑稽だ。戰爭は愛國者と勇士の夢だ。戀と同じく名譽も夢だ。人生は茶番だ。ブルンチユリ君、君の樣な者は人間では無い。器械だ。我輩はそんな器械と決鬪する事は止めた』といふ。『それは至極結構だ。君は素人の軍人だから戰ひを慰みと思つて居るが、私は商賣の軍人だから、せずに濟む戰ひは喜んで止める。然し人生は茶番ぢや無い、極めて眞面目だ。是でモウ萬事片づいたからお二人の幸福の妨げは無い筈だ』とブルンチユリは云ふ。

「イエまだ片はつきませぬ。セルギアスにはルカといふ新しい戀人が出來た。そしてそれにはニコラといふ競爭者があります。是で又セルギアスが色々憤慨する。立聞をして居たルカが引張りこまれる。續いてペトコフ少佐がシヤツの儘で入つて來る。

「乃公の上衣を誰か肩幅の廣い奴が着たと見えてスツカリ綻びて了つた。今お母さんが縫つて居る。早く仕て呉れないと風を引いて了ふ」と少佐は云ふ。やがてニコラが上衣を持つて來た。ライナはそれを取つて父を痛はりげに後から着せかける。そして巧みにポケツトの中の例の寫眞を取つて、ブルンチユリに投げてやる。

少佐はそれには氣もつかず、『ライナや、おかしな事がある。是は一体どうした譯だ』と云ひ〳〵ポケツトに手を入れて、『オヤ無い。お母さんが取つたかな。』

「何を?」とライナは眞赤になる。『何さ、お前の寫眞よ。『紀念の爲め有平糖軍人に贈る』と書いた………、イヤ是には何か入りくんだ譯がありそうだ。』

是から少佐が眞面目になつて訊問しだす。ブルンチユリは『實は少佐、私は其の有平糖軍人です』と譯を話す。少佐は驚いて娘を責める。ライナはそれに答へて『サラノフ少佐の心は變りました。今では此の婦人がサラノフ少佐の戀人です』とルカを指す。ペトコフ少佐はいよ〳〵呆れて、『何、ルカ、あれはニコラの許嫁ぢや無いか。』

するとニコラは進み出で、「それは旦那樣間違で御座います。ルカは身分に過ぎた心を持つて居ります。私は只ルカの世話を致し

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た下部で御座います。ルカが貴族様の奥方になりましたら、私は末永く御贔負に預らうと存じて居ります と云ふ。

是で此方の片はついて、結局、セルギアスはルカの手を取る。そこにカザリンが來て、様子を聞いてビックリする。ルカは大得意で、「私は何もライナの邪魔はしません。私は初めからライナが此の瑞西の士官を好いて居る事を知つて居た」といふ

ブルンチユリはこゝで眞面目に言譯する。マア私とは只此の方に命を救つて戴いた丈の事。『私此の方と比べて御覧なさい。第一年も餘ほど違ふ。私は是で卅四、此の方はまだ十七位でもありますか。此の方は有平糖軍人と隱れん坊をして遊んだのですよ。サア是で事は濟みました。』

ライナは頗る當惑の見えであつたが、「十七の小娘と廿三の女との違ひを今に見せてあげます」といふ。「廿三！」とブルンチユリは驚いて、暫く考へて居たが、「フム、それではペトコフ少佐、私は改めてライナ孃に結婚を申込みます と云ふ。

するとカザリンが遮つて、「でもアナタは私共なりセルギアスなりの家柄を普く御存じなので御座いませうか」と云ふ。ペトコフ少佐も「何分娘は豐かな暮しに慣れて居りますからな。セルギアスなどは馬の二十疋も飼つて居るのです」といふ。

『それぢや丸で競馬の様ですな』とブルンチユリは嘲つたが、『然しそんな事が御望みなら』と云ひながら、ポケツトから最の遺産調を取出し、『私は馬を二百疋、馬車を七十臺、テーブル掛を四千枚、シーツと毛布とを九千六百對、ナイフとフオークとスプーンとを一万本、下男下女を六百人、それに大きな建築物を六個と外に厩だの、茶室だの、住宅だの持つて居ます。猶私は自分の國語を三つも持つて居ます。どうです、これだけ澤山物を持つて居る人がブルガリアにありますか。』

「それぢやアナタは瑞西の皇帝か」とペトコフ少佐はヒタ呆れに呆れる。「いゝえ、私の身分は瑞西で一番高い位の只の平民です。」

是でカザリンもペトコフも譯なく同意する。只ライナは、賣物にされるのは厭だとスネたが、『ナニ、あなたは元々逃亡士官に其手を接吻させたのでは無いか』とブルンチユリが云つたので、『そう・だわねえ、私有平糖軍人が好きだつたんだわ』と耻らふ体にて幕。めでたし〳〵。

■察しろす。此文の前文として、シヨウ劇全體に關する猶二頁あまりのものがあつたのだけれど、紙面の都合で、それは次號の「新聞切拔」の前に入れろ事にした。猶堺は毎號シヨウ劇研究の一篇づゝを書く筈になつてゐる。

ワイルドの小話

和氣律二郎

[illegible]佛人 André Gide の "Oscar Wild" の中には、ワイルドが親しく著者に語つたといふ寓意的小話が六つばかり記載してある。左に譯出するのはその中の二つである

基督の絶望

ある時、基督がナザレへ歸つて行くと、これが我が故郷かと怪しまれるばかりに、ナザレの市は變つて居た。彼が住んで居たナザレは、悲嘆と涙とに充ち滿ちて居つたが、この市は騷々しい笑聲と音曲とに充ち滿ちて居る。基督が市へ入つて行くと、數人の奴隷が花束を擔いで、白い大理石造りの家の大理石の階段へと急ぐのに出會つた。基督がその家へ入つて行くと、碧玉燦爛たる大廣間の片隅の紫の寢台の上に、亂れた髮に紅の薔薇を挿し、酒に唇を赤くした一人の男が横はつて居た。基督はすり寄つて、その男の肩に手を置いて、『何故こんな生活をしてゐるのぢや?』と尋ねた。その男はふり向いて、基督なのを知つて、斯う答へた。『私が癩病だつたのを、貴君が癒して下さつたからには、何うしてこれより外の生活が出來ませう?』

基督は外へ出て行つた。すると顏に脂粉をつけ、身に華やかな衣を纏い、靴に寶玉を飾つた一人の女に出會つた。女の後からは、二色の外套を纏ふた男が、眼に淫欲を輝かしつゝ隨いて來る。基督は近づいて、男の肩に手をかけて云ふ。『何故この女の後をつけて行くのぢや。何故そのやうに女の顏を見てゐるのぢや。』男はふり向いて、基督なのを見て、斯う答へた。『私はもと盲目でしたが、貴君が癒して下さつた。何うしてこの眼で外の物などを見てゐられませう?』

基督は又女に近づいて斯う云つた。『お前の歩いて居る道は、罪の路ぢや。何故この路を歩いて

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

行くのぢや。』女は基督なのを見て、笑いながら、斯う答へた。『今歩いてる路は樂しい道です。貴君は私の罪を皆んな赦して下すつたではありませんか？』

基督の心は悲しみに滿ちた。彼は市を去らうとした。市を出やうとする時、彼は、市の濠の土手で一人の若者の泣いてゐるのを見付けた。彼は近づいて、若者の頭髮を撫でながら、斯う云つた。『友達、何故泣くのぢや。』若者は眼を上げて、基督なのを見て、斯う答へた。『私は死んでゐたのを、貴君が甦へらしたのです。この世で何うして泣かずに居られませう？』

審判の日

神の審判の庭は、寂として音もなかつた。罪人の靈魂は、赤裸々のまゝ、神の御前に立つた。

神は罪人の一生を記した文書を開いて、斯く宣はれた。『汝の一生は罪惡に滿ちてゐる。汝は…………の罪を犯したれば地獄に逐るべし。』

罪人は叫んだ。『私を地獄へやる事は出來ません。』

神は罪人に向つて問ふ。『それは又何故か。』罪人は答へて云ふ。『今迄だつて何時も地獄の生活をして居たんです。』

神の審判の庭は寂として音もなかつた。

軈て神は罪人に宣うやう。『地獄へ逐る事が出來ないなら、天國へ逐るべし。』

『天國へやる事も出來ません。』

神は罪人に向つて問ふ。『それは又何故か。』罪人は答へる。『今迄に天國なんてものは夢にも見た事がないからです。』

神の審判の庭は寂として音もなかつた。

無知

ムルタトゥリ作

「お父さん？何うしてお日樣は落こちて來ないの？」

親爺は困つた。實は何うして太陽が落こちて來ないんだか知らなかつたんだ。そして親爺は、自分の無知を見あらはされたのを怒つて、子供を叱りとばした。

其の後子供は、親爺に叱られるのが恐くつて、何うして太陽が落こちて來ないんだかも、又其の外の是非知りたいと思つた事も、何んにも尋ねやしなかつた。

此の子供は、もう六千年も――否やもつと〳〵永く――生きてゐるんだが、まだちつとも大人にならない。そして今日までまだ馬鹿で無知でゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

近代劇論（下）

荒畑寒村譯

三

スカンヂナビアもまた獨乙の如く、其の思想界は他の道を通じてよりは劇を通じて更に多く進歩した。イブセンの未だ現はれざるに先んじて、ブヨルンソンは北歐の天地に漲れる不平等、奸惡に反抗して、雷鳴の如く咆哮した。然しそれは荒野に於ける聲の如く、僅かに少數者に達したるに止まつて居たが、イブセンに在つては然らず、彼が『ブランド』、『人形の家』、『社會の柱』、『幽靈』、及び『人民の敵』は、古き概念を突き崩して、新しき、眞實なる人生の觀察を以て之に代へた。人もし人類同胞、一致協同、及び仁慈の原則として、地上に成就せらるべき理想としての宗教の近世的概念を知らんとせば、一篇の『ブランド』を讀まば足る社會的虚僞の至上の憎惡者たるイブセンは、彼れの面上より僞善のヴエイルを剝ぎ去つた。特に『社會の柱』『人形の家』『幽靈』及び『人民の敵』に於て

そうである。

社會の柱―その信ぜる町の恩人たり、社會の最も强き柱石たり而して社會上及び財政上の地位の絶頂に在る領事ベルニツクは、虚僞と譎詐と、欺瞞との路を通じて山巓に達した。彼はその親友の名譽を奪ひ、また財產を得んが爲に戀人なるロナ、ヘツセルを捨てゝその妹を娶つた。彼は更に社會の爲てふ名の下に、怪しげな事件に依つて巨額の富を得、遂に用に堪へざる老朽船「インヂアン、ガール」を航海に用ひて、人命を危ふするに至る。然るにロナの復歸は彼をしてその狹隘なる生活の空虚と卑陋とを感ぜしめ、その子のより善き生活の爲に地を淨めたいといふ希望に依て、僅かに覺醒した良心を宥和しやうと努むるに至つたが、やがて眞理は虚僞の上に築く能はざるを知つた時、彼が此の最後の希望さへも粉碎し終つた。全市が此の社會の恩人の爲に頌德の宴を開かんとせる瞬間、良心の成人に達せる彼は、集合せる市民に對つて懺悔する。「予はかゝる禮を受くべき權利が無い、予が鄕黨は予の核盗も知つて居るであらう。よしさらば、万人をして予を調らべしめよ。而して予をして此の事件より新しき生活に入るの預言を實現せしめよ。過去はその鍍金、その僞善、その不眞實、その虚飾、及びその憐れむべき卑怯と共に、敎訓の爲に開かれた博物館の如く予等が背後に橫はるであらう。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

『人形の家』を以て、イプセンは婦人解放に對する道を整へた。ノラは人形の役から覺醒して、父及びその夫ヘルマア、トルバルトに依て爲された不正を知つた。

「父の膝下に居た時分は、妾は父に云はれた通りの考へを持つて居ました。妾の考へが違つて居る時は、妾は父に告げられるのを恐れて、それを隱すやうにして居ました。父は妾を人形々々と呼んで、妾が自分の人形と遊ぶやうに妾と遊びました。妾が此の家に來てからも、矢張り何でも貴君の嗜好通りにして居ました。でなくとも、そう裝つて居ました。今となつて見れば、妾はまるで乞食のやうな生活を送つて居たのです。妾は今迄串戯ばかりして居ました、だけどトルバルト、貴君がそうさせたのじやありませんか。貴君と父は、妾に非常な邪な事をしたのです。」

妻の義務、社會的服從等の、ヘルマアが說明も効を爲さなかつた。ノラは今や人形の衣を服して自ら思案し、自ら判斷する、意識ある婦人となつたからである。彼女は今や万事に先だつて、彼女が自身に對して第一の義務を負へる人間なる事を知つた。彼女は今や、社會的放逐をさへも恐れぬのである。彼女は今や法律の正義を疑ひ、立法の智識を疑ひ、その反抗的精神は、現在せる萬物に對して驀進する。乞ふ、彼女自身が語に聞け！。

『社會か、妾か、妾は孰れが正しいか定めねばなりません。』

根底より社會を震撼せしめたものは『幽靈』である。アルビング夫人は、二十六年の久しき、彼女が夫の家の有害なる空氣中より救はんとせる、その幼兒オスワルドが爲に十字架を負つた。彼女が義務と禮儀との迷信的なる畏怖に於て、彼の父の僞善をカバつた事も、亦その犯せる子の爲だつたのである。噫、彼女がその全生涯の犧牲の徒事、その子オスワルドが受けた父の罪の報いを知つたのは餘りに遲かつた。彼女はまた是を知つた。

「私達は皆幽靈だ、私達の裏に歩んで居るものは、父母から遺傳されたもの許りではない、それは死んだ理想と、生命なき古い信仰の凡ての種類なのだ。私達は生命を有さない、然し私達は遂に彼等を逐ひ出し得ないで、悲慘な態で光明を恐れて居る。汝が義務と稱し、服從と稱する軛の下に私を强ひた時、私の全心が厭ふべきものとして反抗するものを、正當なるものとして汝の賞讚した時、私は實に汝の敎條の縫ひ目を見始めたのだ。私達は只だ一つの結び目を撚まうとしたのみであるが、然しそれを解いた時、凡ては忽ちにして解つた。そして私は初めて、凡てが機械だつた事を知つたのだ。」

イプセンが社會の譏誣嘲笑に對して、屈せざる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の意氣を示したものは『人民の敵』である。此の大傑作は、既に死滅せる社會に與へた、イブセンの引導と見る事が出來る。而してその灰燼から現はれたもの、即ち復活せる個人、勇敢なる反抗者である。

鑛泉の醫師として故郷に招聘された醫師ストックマンは、直ちに浴場が患者に有害なる沼澤の上に建設されて居る事を發見し、是を社會に公表しやうとした。然し乍ら、ストックマンはまた直ちに配當金及び利益が、毫も健康若くは主義と相關しない事をも知つた。そして町の新聞紙『人民の使者』さへも、斯くては町の衰亡たり、自己の損失たる事を知つて、彼に對する援助を撤回する彼が万難を排してその所信を主張すべき場處を漸く贏ち得たる時は、人民の敵てふ嘲笑と罵詈との間に葬り去られて了つた。彼の發見が町の衰亡を招くといふ一事は、爲に官吏、善良なる市民、及び改革者さへも事實を抑壓しやうとした。而して虚僞と詐瞞との上に、町の利益を築くに躊躇せぬ此の一團は、彼を誣ゆるに社會の公益の破壞者を以てする。然しストックマンは實際的政治家ではない、彼は思索する自由なる人民である。彼の心には『虚僞なる社會は破壞さるゝとも何かあらう。それは地上に覆へさなければならぬ。虚僞の上に生存する全人民は、毒蟲の如く根絶しなければならぬ。』

『社會の柱』、『人形の家』、『幽靈』、及び『人民の敵』等の如き劇は、文明と稱する社會的墓地を歩んで居る幽靈を逐ひ散らす動力を作つた。實にイブセンが破壞力は、また同時に無上なる建設力を有するのである。蓋し彼は現存の杜を覆すと共に同情的境遇に圍まれたる個人の優秀に基ける、健全にして理想的なる根底を形作るが故である。

四

英國にも此の數年間にショウ、ピネロ、ガルスヲーシー、ローン・ケネデー等の作劇は、曩には英國の大詩人の作にさへも聾だつた耳に急進思想を宣傳した。故にオーエンが貧困論を讀まず、シヨウが社會主義的論文に耳を傾けざる者と雖も、貧困を描いて痛切悲愴を極むる『バルバラ少佐』の爲には思索せざるを得ない。さればショウは、劇に依てのみ急進思想の傳播者と云ふを得べきである。ショウは此の作に於て、貧困を以て基督教文明の最大罪惡なりとして曰く、

『貧困は人民をして弱からしめ、卑屈ならしめ、倭少ならしめ、貧困は疾病を作り、罪惡を作り、賣淫を作る。實に地上の一切の惨事と悪業とに對して、貧困こそその責を負ふべきものである』。

ハウプトマンが『織工』に次で、最も重要なる勞働劇は、ガルスヲーシーが『爭鬪』であらう。そは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

優勢なる二要素間の爭鬪を描いたものであつて、一は會社の社長アンソニーと云ひ、勞働者が罷工を繼續する事既に半ケ月間、殆んど餓死の境遇に在るにも拘ず、些の讓歩をもなさゞる意志鐵の如き人物。他はダビット・ロバートと稱する革命家で、その勞働階級、及び自由に對する歸依、實に白熱の度に達して居る。而して彼等の中間に在つて、罷工者は激烈なる爭鬪の爲に疲勞困憊し、且つその家族の貧困と欠乏との恐ろしき光景に、狂せる如く苦悶して居る。『爭鬪』に於て最も驚くべく、また傑出せる點は、ガルスヲーシーが描ける群衆の輕燥と、その持久心の欠乏とに在る。

社長アンソニーとロバートとは、相反せる極、共に結び難き鎖に依つて距てられたる極を代表して居る。アンソニーは保守主義、舊思想の權化である。

「俺は此の會社を三十二年間も管理して、四度勞働者と戰つたが一度も負けた事はなかつた。時世は變つたとはいふが俺は變らぬ主人と勞働者は平等だといふが、一軒の家に一人より主人が在るか?。資本と勞働は同じ利益を有つ筈だと云ふが、その利益は兩極の如く廣く別れて居る。勞働者を扱ふには鐵の鞭より外は無い主人は主人だ、勞働者は勞働者だ。」

其の古き、保守的思想に對する執着は別として猶その勇氣と堅實とは實に讃辭に値するものがある。斯の如き敵と戰ふ人は正々堂々の陣を以てせねばならぬ。ロバートの堅實も、またアンソニーに讓るものではない。

「吾々が戰つて居るのは目前の短かい時間の爲ではない。又吾等自身の微軀と、その暖かさの爲でもない。後に來る凡ての人類、凡ての時世の爲である。オヽ勞働者よ、彼等の愛の爲に、彼等の頭上に他の石を轉がすな。天を暗くするのを手傳ふな。」

牢獄と刑罰！　いかに多くの著者に依れる著述が此の社會的大問題を歷史的、心理的、及び社會的見地から評論し、いかに其の組織の不完全なる乎を示したであらう。然しその結果は、遂に殆んど何事も成就されなかつたと云ふも妨げぬ。然し遂に此の嚴肅なる社會的弊害は、ガルスヲーシーが『正義』に於て、その劇的解釋を發見するに至つた。

ジエームス、ハウ法律事務所の書記ウキリアム、フアルダアルは人妻ルスと戀し、その殘忍なる夫から救はうとして、小切手を僞造した事が發覺する。是が法廷の場は、そのドラマチツク、パヲアと心理的確實とに於て、將にトルストイが「復活」の法廷の光景に匹敵する。法律の鐵面は容赦なく此の青年を轢き過ぎて、フアルダアは懲役三年の宣告を受けて牢獄に投ぜられる。額に罪人の印

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を捺され、心に悲慘の鐵を置かれて、ファルダアが最後に獄を出づるや、ルスが懇請に依て舊主はもしルスを捨てんには、再びファルダアを雇ふ事を承諾した。而して此時また、ファルダアはルスが貧の爲に遂に身を賣つたといふ、恐ろしい報を初めて耳にしたのである。此の煩悶の刹那、ファルダアが自ら踞科者として報告しなかつたといふ故を以て、巡査は再び彼を牢獄に投じ去らうとする。憐れなる若きファルダアよ。彼は空獄に護送さるゝ途中に自殺して、人爲の正義よりも更に大なる平和を發見するのである。

現代社會生活を描いて痛切を極むるもの、他にケネデーが傑作『家の下僕』がある。劇中の主人公なる溝掃ひロバートは、社會から排斥された粗雜野卑なる醉漢である。然し彼はその仲間をして空氣と光とを得せしむべく、自ら進んで恐ろしい溝渠に降つて行く、眞實唯一の英雄である。勞働が社會的福利の贖ひ主たる事は、有ゆる語と有ゆる國とに於て叫ばれて居る處である。然もロバートの單純なる語はそれ等にも增せる大なる力を以て、勞働の意義とその使命とを表して居る。

五

アメリカは劇に於ては、猶未だ幼兒の時代に在る。彼女が有する唯一の眞の劇は、ユーゲン・ワルタアが『最も易き路』であらう。經濟的及び社會的狀態に於ける人力の罪惡的浪費は、多くの婦人を驅つて如何なる男子、如何なる家庭にも結婚せしむる如く、或は男子を驅つて、如何なる貧窮をも堪へしむる如く、またローラをも驅るのである。

「お前さんは妾達が、こんな男達の生活を、馴れた獸ほどにも想つて居ない事を知らないの。實際勝負事見たいなものされ、もし巧くやらなからうものなら、すぐ負けて了ふんだから。」生活場裡に立てる婦人が唯一の武器たり、唯一の商品たるものは、即ちセックスである。是れのみよく、『生存の勝負事に於てカードたるを得るのである。此の盲目なる宿命說は、婦人をして寄生蟲たらしめた。誰かいかでか、ローラが堅忍と精力とを期待し得やう。『最も易き路』は、古代から彼女に對つて示されて居た處ではないか。

此の他、チャールス・クレインが『第三等親』、デイル・パッターソンが『第四級民』、イダ・クロッチャーが『男の世界』皆な現社會の恐るべき不安を人民に示せる傑作であつて、漸くアメリカを照さんとする劇の曙光と云ふべきである。

之を要するに、無智と偏見と迷信との堰を超へて、澎湃たる不穩の潮流を天に滔せしむる、社會的不滿足の最も强き發達は、實に是を近代劇の力に歸せざるを得ぬのである。（エンマゴールドマン女史）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

讀んだだけ

貞雄

■途すがら(水上瀧太郎) 夫婦と第三の男此のトライアンギュラア、ユニットは、古い題材である。作者が、此の古い題材を描くべく敢てする以上、其扱ひ方に於てか、其組合せによつて生ずる事件に於てか、其各自の挑つて居る情緒に於てか、新しい作者獨自のものを見せる覺悟があつて欲しい。不幸にして此の作は失望を齎らした。作者の力は專ら孤兒で、自分の家のかゝりうどであつて、今九州の某炭山の役員に嫁して居る從妹の美知代を訪問する俊雄を描くに注がれたが、俊雄に於いて、私は、もと美しくつて今卑しく醜くなつたものに對する反感憎惡の念を抱き、殘忍にそれを批判するばかりで、其美しいものを卑しく醜くした、原因に對しては全然批判の能力を有しない青年の模型を見るばかりである。かう云ふ青年を描いた點に於いて成功して居るとは云へやう。(新小說)

■高山彥九郎(井手蕉雨) 愚作。吾々は前途有望と云はれる吉右衞門、菊五郎等が、かゝる作物を演じて恥る色のないのを見ると、前途有望の四字には私の知らない意味があるかを疑う。(新小說)

■死の解釋(高崎春月) 今日此頃こんな小說を讀ませられやうとは!

■眞夏(中村吉藏) 社會劇と銘を打つてあるが、進化かと思つた。人物の出し入れが不自然の偶然である。人物の、其の言葉もする事も誇張されて居る。勿論是れだけでは、しかし、作の價値を減少する理由にならないとは、イプセンの例を引用する迄もない。たゞ此の作には、此等の缺陷に打ち勝つべき何物もない。而して是れが此の作の最大の缺陷である。(新小說)

■砂丘(長田幹彥) 一時流行した追憶小說と云ふ部類の中へはいるべき作であらう。かゝる作の面白さは、其ありし日の心持が其まゝに出て居る所にある。此の作には其時にはわからず、經驗を積んでからわかつた事件、言葉が、交ぜ織になつて居る。幼い時の記憶から逸し去つた事を年とつてからの想像を以て補つた痕跡がある。是れが著しく讀者の感興を殺ぐ。(新小說)

■その春の頃(水上瀧太郎) 私の知つて居る限りでは、是れは作者が作者自身以外を描いた最初の試である。作者が、此の試と共に、其れを表現する技巧にも骨を折つたあとが著しいのは讀んで頼る心持がいゝ。作者が描かうとした町野の人物もかなりの程度まで成功して居る。たゞ町野が過去の自分を嘲笑し、「物事の裡面を見る事の出來なかつた時代に、疑ふ事を知らぬ青年の幼稚な清教主義」を冷評する際に、作者も一所になつて、嘲笑し、冷評する嫌がある。而して、その嘲笑、冷評が、極めて淺はかな皮相の理解に基いて居るだけに、作者の出す顏が甚だしく目障りになる。町野君一人をして勝手に嘲笑し、冷笑させて置けば町野君の性格は愈々明確になつたであらう。(三田文學)

■罪人(薄田泣菫譯) ストリンドベルヒ作。夫婦と云ふ關係が、特殊の境遇に置かれて生んだ、深刻な謎が、短い頁の間に完全に現はされて居る。頭腦の不恰好な、色盲で斜視で、聽覺が不完全で、身体が不均整な、犯罪人の類型其物を妻とした男が、却つて、其妻を殺すと云ふ點に、測り難い不思議がある。裁判官、陪審官などが、其不思議に對して無能力であると云ふ事は、讀者に眞面目な問題を提供する。(三田文學)

■途中(增田篤吉) 作者が何を描かんとし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たのかは不明の作。(三田文學)

●大事取(上田敏譯) ガルスウオシー作。(中庸と、コロプロマイズとを唯一の信條として居る人物の類型に對する皮肉である。押しすゝめて云へば、英國氣質に對する皮肉である。脚本「爭鬪」に於いて、教授ヴオガンが云つた樣に、公平、中庸の態度を完全に持し得たガルスウオシーの口から此皮肉を聞くのは一種の皮肉である(三田文學)

●縁日(正親町公和) 派手なりをするとの好きな妻君を連れて神樂坂の縁日へ行つて何か土產を買つて歸つて來た。是れだけの事をかいて小說になると云ふ事を、此の作によりて敎へられた事を作者に感謝する(白樺)

●一人の死(萱野二十一) 一千九百年の歷史と、宗教家の努力とはよつて、超人間的存在とされた基督を、靜肅な溫情のある、やゝ神秘的分子を有する人間と見て、其死を描くと云ふ目的は、殆んど遺憾なく達せられたと云うていゝ。作者の落付いて穩かな、しなやかで幽婉な表現法は、描かれた事件に一種の微かな、月の暈の樣な氣分を伴はしめる。著しいメーテルリンクの影響も亦認められる。(白樺)

●計畫(平出修) 此の中に描かれた人物は吾々ーこゝでは吾々と云ふ字を使ふーが忘れやうとしても忘れ難い人物である。而して、作者は、其人物を知り且つ研究するに便宜な地位にあつた人であると云ふ事も、吾々が十分承知して居る事である。而して作を讀むに方つて作中の人物と、實在の、正確に云へば、實在したとのある人物とが幷行して頭の中に浮んで來らざるべく、餘りに深く頭に刻まれて居る。其身振り、癖、言葉の調子もはつきり刻まれて居る。創作としての價値を判斷するには、どうしても其二つの人物を比較するのを禁じ得ない。其結果は、作者に氣の毒ながら人物の與へる印象が稀薄であると云はざるを得ない、計畫が進行する動機も徹底的でない。少なくとも吾々を首肯せしむるに足らない。亨一に對する舊同志の態度にも誤りがある。(スバル)

●背教者(北尾夕街) 年上の女に對する若い男の心持、意識の閾下にある自然の力の衝動と理性とが渦卷いて織つて行く心持ちとが、力が弱いが、はつきりと描かれて居る。(スバル)

●樂器(小川未明) 此の作者の作に屢々描かれたと同じ樣な人物の、同じ樣な心持を描いて、同じ樣な効果を齎らして居る。此の作を讀んで感じた事は、作者は、讀者がすべて、自分の前作を讀んで居ると、豫想して居つていゝかどうかと云ふ事である。作者が、前作にデペンドして居つてもいゝかと云ふ事である。勿論如何なる形式を採らうかそれは作者の自由である。しかし、ある作物を公にするに當つて、前作が與へた印象にデペンドすると云ふ事は卑怯であると云はなければならぬ。此の作者がそれを意識してやるとは思はない。たゞ作者の自然の傾向がさうするのであらうが、作者が一篇一篇を獨立させるに骨を折る必要があるまいか。(新潮)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大久保より

榮

■創刊號の出る少し前、地方の舊いお馴染の人々に、購讀勸誘の葉書を出した。其の返事の一つの中にこんなのがある。「直接購讀の儀は暫時御免を蒙り度、其の代りにはコッソリと本屋の方から購讀致すべきは勿論、精々他にも讀者を勸誘致すべく候間、何卒不惡御思召被下度候」

■それから「自分のウチへ送つて貰つては困るから、かう／＼云ふ家へ送つてくれ」と云ふやうなのも二ッ三ッあつた。これには部屋住の人もあれば、又一家の御主人の人もあるやうだ。

■さうかと思へば、四人五人の讀者を勸誘して前金を一まとめにして送つてくれる人もある。十人二十人の讀者になりさうな人の名を知らせてくれる人もある。わざ／＼見本を買つて十人ばかりの人に送つてくれる人もある。又自分の家の門前に「近代思想取次所」と云ふやうな看板まで出した人もある。少々ながらと云つて寄附金を送つてくれた人もある。

■雜誌の發送をすましてから數日たつて、ある役所に寢とまりをしてゐる人からの葉書に云ふ。「雜誌は着いたが、まだ讀いても見ません。しかし冷淡と云ふ譯ではありません。寢床へでも入つてから、ゆつくり讀んで見たいと思つてるのです。今恁うしてもぞく／＼手が出したくつて困てます。それをじつと怺へてゐるのも中々たのしみなものです。」

■大赦令が出た。獄中の友人も半分は歸つて來た。僕等も半ダースばかりの前科が消滅して、おまけに尾行まで大赦になつた。尤も其の後とても一週に二三度はやつて來るやうだが。兎も角ウチの前に男四人住んでゐた小さな家が空になつた。

■寒村、社の裏隣にひつこして來た。番地は社と同じ三五二。處が來る早々インフルエンザにかゝつて、此の四五日前からは三十八度から四十度にあまる大熱に苦しめられてゐる。其四十度何分になつた時なぞは、うは言を云つて、「安成の 野郎仕樣 がねえな」とか、「もう二頁だ。しかしそれは大杉がやる筈になつてるんだから」などゝ云ふかと思ふと、何んだか譯の分らぬ鼻歌を歌つたりする。

■蓋し安成の野郎仕樣がねえとは、本月から小說の批評を受持つた筈のが、編輯〆切期日が過ぎて勤先へ電話をかけるやらウチの方へ速達を出すやら、隨分手數をかけさして、しかも其の日まで遂に何んの音沙汰もなかつたからの事なり。

■高畠家に男の子が生れた。丁度乃木大將の死んだ騷ぎの後なので、名を稀と書いてマレと讀ませるんだそうだ。「六十日は命がもたんそうだ」とか云つて、ひと事のやうにすましてゐる。

■和氣はアンドレ・ジイドの「オスカー・ワイルド」を翻譯中。此本は世界に五百部しかないと云ふ珍書で、平田禿木氏が牛津大學在學中手に入れたものださうだ。近々平田禿木、馬場孤蝶、戶川秋骨三氏の序文を添へて出版する筈。

■本誌第一頁、第二頁、及び第廿九頁のカットは作圖も刀も共に同人寺内純一の手に成る

―十月二十日―

■寒村の病氣も大ぶ善くなつた。もう熱も平熱になつた。しかしまだ口の中がたゞれてゐてロクに物が言へないのと、それに十幾日間も流動物ばかり口に入れてゐたので、餘程からだが衰弱して、床の中でひとりでジレツタがつてゐる。

―十月廿四日―

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊紹介

■俠客氣（白柳秀湖著）　先づ序文だけを見ると、秀湖が其の三部作「親分子分」を公にした抱負は、人生其者を經濟的關係の見地から說明しやうと云ふ隨分大きな處にあるらしい。けれども之れを本氣に受けて此の本を讀むものがあつたら、大概の人は其の期待に欺かれるに違いない。實の處は只多少そんな意味合から、稗史小說の類を材料にして、親分子分の關係を面白く書いて見たまでのものに過ぎない。卷尾に記した、福田德三著「經濟學講義」の卷頭にある、實はマーシアルの言葉、「世界の歷史を左右する最大勢力は宗教と經濟との二なりと云ふ可し」などゝ云ふのも、ホンの餘白の埋草に過ぎないと思へば罪がない。

しかし讀物としては實に面白い。それからそれへと止めどもなく餘談に亘つて行く長たらしい講談本の神髓だけをうまく組合せて、旗本奴と町奴と町火消との消長を多少其の時代と社會とを通じて描き出して行く處などは、古い文句だが本當に一讀卷をおく能はざらしめるものがある。

猶此の次に出る「浪人篇」は、明治大正の富豪と政治家とに就いて、其の關係を評論するものださうだ。事が現代に關するものだけ、それだけ面白いものだらうと期待してゐる。（金九十錢神田鍛冶町東亞堂）

■悲しき愛（富田碎花著）　牧水が絕望的氣分の底の輕きユーモア、哀樂が諦らめの裡の淺き悲哀は、此の著者の歌には認められないが、スナホな感情とナダラカな詠ひぶりとに、猶著者獨特の才を發揮して居る。裝幀美にして可憐作歌五首に曲譜を附して卷頭に入れたのは、却々想ひ付きだ。一卷二百七十頁の中より、會心の作三首を拔く。

泣けば世に只だ已れのみ殘されし、心地も今は少しく安し。

人を想ふに慣れゝば悲し胸さくる、想ひ再び知られずなりぬ。

返れよと涙にぬれて打ち見るは、愛の影かや夢の影かや。（金七十五錢淺草下平右衛門町岡村盛花堂）

■花賣女（柳川春葉著）　巴里の花賣女テレザが子爵の嗣子吉本久雄と戀して、地位や門閥の爲に結婚を許されず、遂に悲慘な最後を遂げるといふ長篇小說。差詰め劇に脚色して、伊井河合にやらせたら打つて付けだらう。理窟は拔いて面白い事は請合ひである。（金一圓麹町平河町五金尾文淵堂）

■入蜀記（原穰郁註）　有名なる陸放翁の著「入蜀記」の註解を加へしもの、譯文と字解とを駢置し、最後に原文を挿む。宋末の文豪が雄瑰の文字、親切に註解せられてゐる（金六十五錢小石川大塚上町城北出版社）

■彼岸過迄（夏目漱石著）　著者が曾て朝日新聞紙上に連載した小說で、七篇の短編小說が一つの長篇小說に纏まつたといふ觀もあり、亦著者自身もそういふ考へで執筆したと云つて居る。「彼岸過迄」といふ題は、元日から初めて彼岸過迄書く考からこう名づけたに過ぎない。文章は相變らず巧いもので、新聞連載中は例の廻り拗い筆に大分惱まされもしたが、惓てこう一冊に纏まつて見ると、それが矢張り面白い。何時も乍ら裝幀の好みは、本文と共に洒落つ氣の多い、道樂氣の強い、甚だ凝つたものである。（金一圓五十錢日本橋通四丁目春陽堂）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

六合雜誌から

日本に於ける最も進歩したる青年基督教團体と自らも任じ人も亦許してゐる六合雜誌へ、雜誌の交換を御願ひしてやつた處、早速次ぎのやうな返事が來た。

大した御鼻息ですれ。ベルグソンを知つたものは貴下一人でしやう。どれだけのものが出來るか、讀んで刮目して居りますから、一ツ花々しくやつて見て下さい。六合雜誌も折々御送り致しませう。

十月三日　六合雜誌發送係

近代的な　大杉樣

何れは大馬鹿とか三太郎とか云ふ姓が名のある人なのだらうが、ヤソの御方のマアお氣の大きい事！

次手に一寸御紹介するが、九月はベルグソン號で大分あちこちから好評を取つた此の雜誌は、十月は又、社會問題號と云ふ恐ろしい看板を張つて、山氣澤山なあて事をやつてござる。

東西！東西！うまく行きましたら御なぐさみ、御手柏子御喝釆を願ひまあす。

——榮——

寄贈

親分子分俠客篇（白柳秀湖著）　東亞堂
花賣女（柳川春葉作）　金尾文淵堂
悲しき愛（宮田脺花作）　岡村盛花堂
入蜀記詳解（原穗郁註）　城北出版社
白樺　婦人評論
新小說　人生と表現
新潮　新佛教
青鞜　新公論
スバル　審美
奇蹟　獨身
人物　殖民地より

次號豫告

■社會進化論（マーテルリンク）　高畠素之
■「新聞切拔」（ショウ劇梗槪）　堺 利彥
■ソシオクラシー論（ワードの社會學）　小原愼三
■艦底（小說）……荒畑寒村
■近代佛文學管見（評論）……大杉 榮
■（ヘツダ・ガブレル（批評）…同 人
■工場へ工場へ（詩）……飄 風

注意

■定價一冊金拾錢、半年分前金五拾五錢。一年分前金壹圓。但し海外よりの御注文は別に一冊金二錢宛の郵稅を要す。
■每年數回擴大號を發行す、其場合には其定價に應じて前金より差引す。
■郵券代用は五厘切手に限る。但し一割增の事。
■廣告料特別一頁拾五圓、普通拾圓。

大正元年十月廿九日印刷納本
大正元年十一月一日　發行

編輯兼發行人　府下大久保百人町三五二　近代思想社內　大杉 榮
印刷人　府下大久保百人町三五二　荒畑勝三
印刷所　淺草區黑船町二十八番地　東京並木活版所

大賣捌所　東京堂、上田屋、東海堂、北隆館

地六社復刻版

東京魁新聞

發行所
東京魁新聞社
東京市麹町區有樂町一丁目三番地
電話本局一六八七番
振替二三一九六番

▲東京魁新聞は月三回發行、毎號十二頁の大新聞で、然も一部金三錢、一ケ月金十錢、一ケ年金一圓といふ**破レコード的低廉**です

▲東京魁新聞は旬日間の重要な出來事に、剴切精到なる批判評論を加へて報道する外、忌憚なき人物月旦、趣味多き演藝記事、破天荒の探偵小說、諸外國の最新事故、及び本紙獨特の大寫眞版を滿載します。殊に**政界の巨頭連が魂膽**、**詐欺會社**や**ボロ銀行の秘密**は、恰かもX光線で照した如く明かに映し出される處、他新聞に見られぬ特色です。

▲東京魁新聞は毎號**若宮卯之助**氏の痛烈なる論文を掲げ、猶**堺利彦**氏も時々寄稿せられます

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

陸軍教授西村豐序日本藥學協會主幹鴨田修治著●洋綴美本正價金四拾錢送料不要

再版 どもり矯正法

本書は墺國醫學博士コォン氏のドモリ矯正法に則り著者が研究の結果世に公にせしもの也此書に就て矯正せば如何に『ヒドキ』ドモリの人も數十日の練習にて矯正し得て正音の人となり得る良書也

(八版) 陸軍野砲兵曹長與藤久登著

最新 長身肥滿法

實費郵券二十五錢にて送附すべし

せの低き人本書に依る時は高くなる やせたる人病後、産後、其他生れ付の人にても忽ち肉付强健となる良書なり

日本藥學協會主幹 鴨田游水著

美本三百頁正價金六十錢(郵税六錢)

四版 男女 通俗 秘密療法

本書は前きに男女衛生秘密療法と題し出版せし處風俗壊亂と認られ發賣を禁止せられたるを二三訂正更に出版せしに即時賣り切れ又今や旬日ならずして再版す賣り切れぬ内早く求められよ左に本書の内容の目次大略を記す頭髪を美しくする療法、白毛豫防及白毛染藥製法、ちゞれ毛の療法、毛生藥調劑法、皮膚を美しくする療法、皺を防ぐ療法、にきび、そばかすの療法、色を白くする療法、ひつ、なまづ、わきがの療法、ほくろの療法、陰毛發生法及陰虱の驅除法、腟の臭きを治する法、月經時の養生法、子宮病の療法、手淫の害毒と其療法、過淫の害毒と其療法、衛生秘密問答、腟加答兒と陰門搔痒症の療法、姙娠及避姙法の話、不感症の療法、陰莖の强直症及包莖の療法、不感症及淫慾缺乏症の療法、淫慾を制止する法、遺精、早漏『腎虛』の療法、微毒淋病の療法、疳瘡と横根の療法、あか鼻の療法、鼻を隆くする法、肥える法及瘦せる法、長身法、縮小便療法、癲癇の療法、肺病の療法、癩病の療法外皆最新療法數十件本書は衛生的新知識を養成せんとする者及家庭に在て秘密病の爲に苦辛しつゝある人其他進歩的賣藥化粧品を製造販賣する人々の良師友

職業學講義

●本講義は文明的確實しかも小資本にて經營し得らる化學的工業數十種を撰び毎月二回二百六十頁以上の教授書を發す講義は平易簡明しかも叮嚀七ヶ月卒業月費四十錢全部出來十四冊一時送り特價貳圓五拾錢詳細貳錢送れば規則を送る

藥學講義

●本講義は自宅に在て文部省施行の藥劑師試驗に應ずる者の羅針盤藥業家の侶伴十七ヶ月講了月費卅五錢全部出來一時送り特價五圓規則郵券貳錢見本一號廿錢を要す

發賣所 東京本郷區丸山町四番地 日本藥學協會

最新刊

(宋)陸放翁著

笹川臨風先生序

原穂村先生註

寺崎廣業畫伯書

吉川靈泉畫伯

池上文僊畫伯裝幀

入蜀記詳解

▲三六版上製クロース

▲口繪コロタイプ版二葉入

金文字入頗る美本

定價六十五錢

郵税六錢

東京小石川大塚上町十三

城北出版社

賣文社

大赦の結果小生の前科五犯も悉皆消滅致候由難有仕合に奉存候猶同時に角袖尾行も解除相成候間今後は御懸念無く御用命願上候

御報次第營業案内呈上

堺利彦

四谷區左門町十三

▲理想の良縁を望む方は郵券封入御照會あれば規則書贈呈す

▲弊社は時代の要求に應じ非營利的親切を旨とし迅速秘密に御世話す

結婚媒介

東京市牛込區西五軒町廿三番地

十番

五番

相生社

松波彦吉

●開業廣告

御名刺

はがき

廣告

外各種

(以上各印刷物は何れも印刷鮮明、價格誠實期日正確を旨とし、御注文に應じ可申候尚學校其他公共團體の印刷物は特に大割引可仕候)

市内は御一報次第遠近に拘らず即刻參上御注文に應ずべく候

東京市本郷區駒込追分町拾番地

立信活版所

大脇直壽

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●秋冬新荷着御披露

本年特約せる禮服地、脊廣地、コート地、變リチヨキ地等流行新柄地全部荷揃致居候間何卒不相變御用命の程奉願上候

例の通左の特價にて提供致候實用經濟時好とを兼備せる

金拾五圓均一

セビロ三ツ揃・オーバコート
インバネス・吾妻コート

四谷區忍町（鹽町停留場前）

文武官服裝調進
各學校制服御用

(三)

三井洋服店

電話番町二四六七番
振替東京九一八五番

◎學校制服

七圓八拾錢　九圓　拾貳圓

右三均一ハ滿都學生間ニ大好評

階上にはフロックコート、脊廣服、オーバ、インバネス、コート及シヤツ、ネクタイ等附屬品最も廉價に販賣致居候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

乃木將軍と日本新聞

乃木將軍が其身を殺す九月十三日の朝、夫人と共に書齋に在るの狀を撮影したる寫眞は今日廣く世に傳はれる將軍夫妻好個の記念物なり

乃木將軍と日本新聞

眞摯誠實なる乃木將軍は其最後に先つ數時間、手に眞摯誠實なる日本新聞を放さゞりき

世の眞摯誠實を喜ぶの人士は幾久しく日本新聞を購讀して乃木將軍の眞摯誠實を偲び給へ

當日乃木將軍は日本新聞の第一面に在る明治天皇の御寫眞を凝視し奉りつゝありたりと推想さる。日本新聞の愛讀者當日の紙面を再讀せば更に幾多の感慨あらん

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大正元年十月一日第三種郵便物認可　大正元年十一月一日發行（毎月一回一日發行）

萬年筆は、

平民的となれり

オリオン現れたる以後

萬年筆は最早貴族富豪の贅澤物に非ずしてビジネス上缺く可からざる日常の生活の必要品也、官吏も會社員も操觚者も學生も職工も技術家もポケットに萬年筆なきものは時代遲れ也

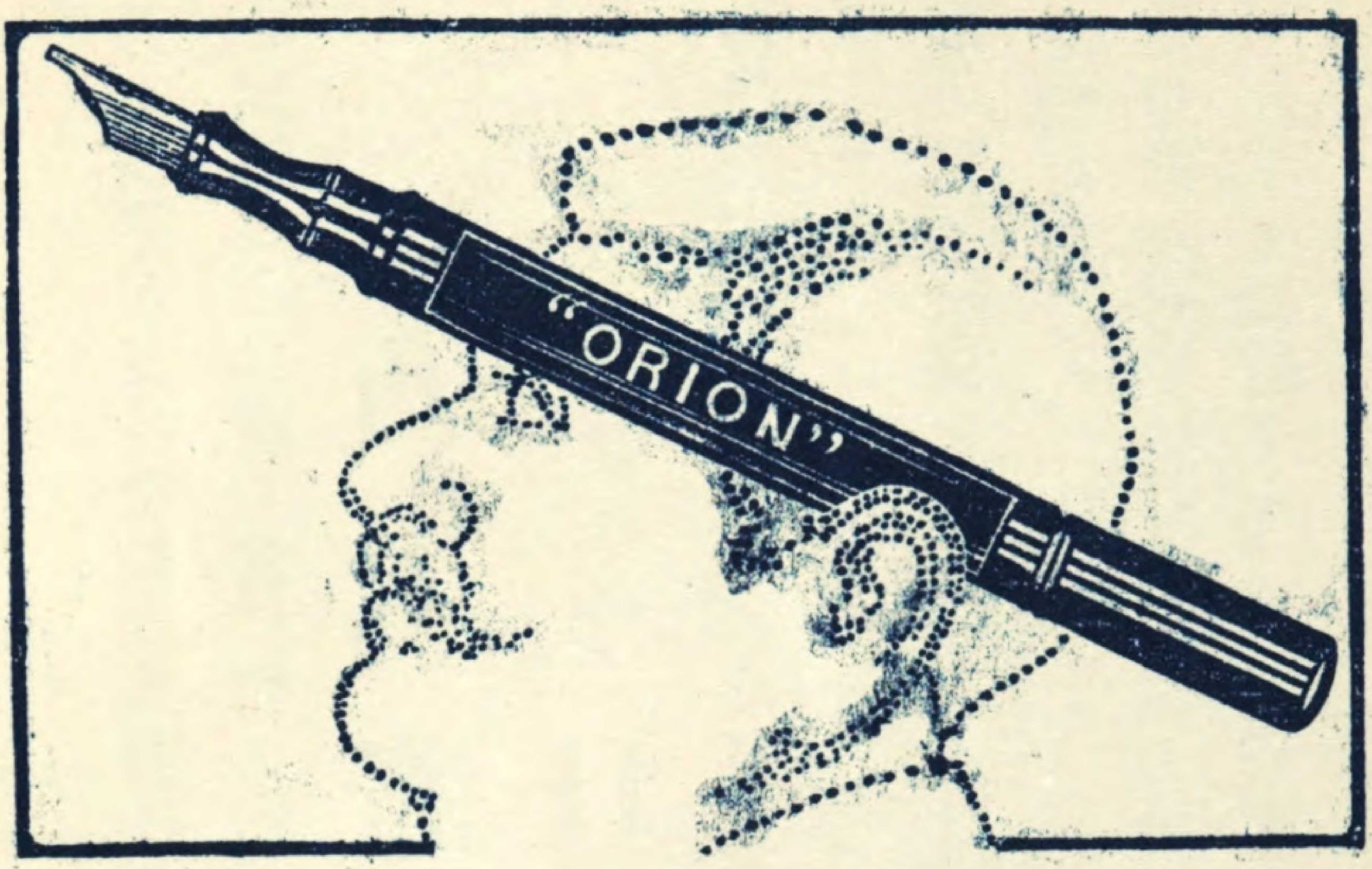
オリオン　正價金貳圓八十錢　（郵税金拾貳錢）

裝飾付　金三圓貳拾五錢

東京○大阪○京都

丸善株式會社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



萬年筆は

平民的となれり

オリオン現れたる以後

萬年筆は最早貴族富豪の贅澤物に非ずしてビジネス上缺く可からざる日常の生活の必要品也、官吏も會社員も操觚者も學生も職工も技術家もポッケットに萬年筆なきものは時代遲れ也

オリオン　正價金貳圓八十錢

（郵税金拾貳錢）

裝飾付　金三圓貳拾五錢

東京○大阪○京都

丸善株式會社

大正元年十月一日第三種郵便物認可　大正元年十一月一日發行（每月一回一日發行）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN